

の理解を深めることができました。オリエンテーションの後、内閣府による歓迎会が行われ、この場でほかのPY、つまりこれから研修の同期生となる青年と知り合うことができました。

翌日私たちスリランカPYは、ホームステイを体験するため、ニュージーランドPYと一緒に三重県へと移動しました。私たちにとっては初めての新幹線体験でした。津駅で現地IYEOメンバーが温かく出迎えて下さり、その後三重県の主催で歓迎会が行われました。ホームステイ受入家庭との顔合わせは、私たちのこれまでの人生で最も気持ちの高まる場面の一つとなりました。各御家族は、私たちが心地よく過ごせるようにと精一杯の努力をして下さり、津市内の様々な場所に連れて行ってくださいました。受入家庭の方々の優しさや寛大さには、本当に感激させられました。御家族とのお別れの際には、スリランカPYは誰もが涙を流していました。

陸上研修

陸上研修は、オリンピックセンターで1月20日に始まりました。研修の当初は、かなりきついと感じたのですが、ほかのPYからの支えもあって二日ほどでその大変さを乗り越えることができました。オリンピックセンターでは、アイスプレイングやセミナー、導入フォーラム、コース・ディスカッション、レター・グループ活動など様々なアクティビティがありました。この研修の最初から、PYが上手に互いのつながりを作っているのが分かりました。これは、この後に続く部分がきっと充実したものになる良い兆しだと思いました。

陸上研修の期間中、NLは特別な栄誉にあずかり、皇太子殿下の御接見を賜ったほか、安倍晋三総理大臣への表敬訪問もさせていただくことができました。総理大臣と一緒に公式フェイスブック用の写真に収まることできたのは、特別な思い出になっています。

レター・グループでの最初の活動として、都内視察をしました。準備をしてくれたJPYに心から感謝しています。私は、この視察でレター・グループのメンバー間の和が強まったと感じました。その後、コース・ディスカッションごとの課題別視察として六つの場所を訪れました。この訪問から、各コースに関連する日本の現状への理解を深めることができました。

船上研修

船上研修は1月27日に始まりました。全てのPYにとって、にっぽん丸への乗船は感動の瞬間でした。ex-PYである私にとっては格別なものがあり、15年の長い時を経てこの船に再び乗船するのだと思うと感激のあまり泣き出してしまいました。

しばらくすると、この船は私たちの家、そして愛情とやさしさと幸せを感じる場となりました。船の上は、安

心して語り合い、気持ちを表すことのできる場だと感じました。何かしら不安を感じる時には、いつでも寄り添ってくれる友人がいました。一人のアドバイザーの方は、こんなふうにもおっしゃっていました。「ここでは皆自分の家族なのだから、ステージでの失敗も何も怖がることはない」と。さらに、レター・グループでの活動を通して、各国の様々な文化とどう接したらいいのかも学んでいきました。コース・ディスカッションやセミナー、ディベートなどを通して、コミュニケーション能力を向上させることができましたし、自主活動やPYセミナー、ワークショップなどを自ら企画することで、リーダーシップ能力も磨くことができました。NPやほかの国のクラブ活動に参加することで、相互理解が深まり、グローバルな話題に関する視野も広がりました。全体として、私たちは文化や宗教、そして言葉の壁を乗り越え、皆の協力で強固で美しい人と人のネットワークを築いていこうという、国境を超えた気持ちを強めることができました。

訪問国活動

4年の歳月を経て、にっぽん丸は再びインドのチェンナイとスリランカのコロポに寄港しました。チェンナイでは、カラクシェトラ芸術学院を訪れ、静穏と自然そして芸術の融合を見ることができました。昼食を経て、午後はコース・ディスカッションごとの課題別視察がありました。翌日はRGNIYDを訪問し、文化交流イベントに参加しました。夜は、青年スポーツ省主催の夕食会でした。

2月14日、にっぽん丸はこれまでのコロポ（スリランカ）寄港と同じ定位置に着岸しました。船の着岸に合わせて、港ではNYSCとSWYAAスリランカによる盛大な歓迎式典が行われました。オリエンテーションと記者会見の後、PYは現地ex-PYと街へ繰り出しました。この自由時間の中に、NLは国会議員であるニロシャン・ペレーラ氏への表敬訪問を行いました。船上での夕食会の際に、スリランカ民主社会主義共和国大統領が船を訪れたことは、大変光栄なことでした。翌日、PYはコースごとに課題別視察を行いました。スリランカの首相主催による昼食会の後、PYはNYSCでのサッカー親善試合と文化ショーへと向かいました。三日目は、丸一日がホームビジットに充てられ、PYの95%が楽しかったと報告しています。

全体として訪問国活動は、インド及びスリランカの文化、歴史、社会的背景に関する理解の助けとなりました。加えて、PYは各国のex-PYの、本事業に対する強い愛情を目の当たりにしました。これは、PYが帰国後に活発に事後活動に参加するよう励ます良い影響を与えたと思います。

終わりに

最後になりますが、日本国政府、内閣府、管理官、団長、アドバイザーの皆様、管理部員の皆様、インド及び

スリランカでの関係各位、訪問受入家庭の皆様、船長、クルーの皆様、そのほかこの事業の成功に様々な形で貢献された全ての皆様に、心から感謝申し上げます。

タンザニア共和国

謝辞

タンザニア代表青年団を代表して、SWY28にお招きいただきましたことに対し、日本国政府内閣府に感謝申し上げます。事業では、セミナーやワークショップ、計画作成など様々な活動を通して私たちタンザニアPYは、多様な文化と接する方法を学び、またリーダーシップ能力を高めることができました。

出発前の準備が整ったのは、多くの方々の献身的な働きや助言、助力、支援のお陰です。タンザニア政府特に天然資源観光省、同外務省、日本大使館、家族と友人たちには特に感謝いたします。

また、アドバイザーの皆様、ファシリテーターを含む管理部の皆様にも大変お世話になりました。皆様のアドバイスなどは事業の成功に欠かせない大切な要素でした。各国PYの皆様とex-PYの皆様にもお礼申し上げます。皆様がそれぞれの経験や文化などを共有して下さったお陰で、11名のタンザニアPYは、多様性の強まる社会の中で活躍していく能力を培うことができました。

出発前活動

倍率の高い選考過程を経てタンザニア代表青年団となった私たちは、SWYに向けて4か月の準備期間を過ごしました。オリエンテーション・ミーティングやチームの和作りの活動、公式ミーティング外での集まりなどで、メンバー間で活発な話合いがなされ、メンバーが知り合うことや参加各国について知ることに役立ったほか、事業や日本そのほかの関連する事柄への理解を深めることができました。日本国大使館からは、会場の提供や様々なアドバイスなど多くの御支援を頂きました。これらを経て私たちは、兄弟姉妹のような仲になり、タンザニアを出発しました。

岩手県でのホームステイ

日本に到着後、タンザニア代表青年団とチリ代表青年団は、ホームステイの行われる岩手県へと向かいました。各PYが一つの御家庭で三日間を過ごしました。岩手はとても寒く、雪が降っていました。タンザニアは1年中温かく雪は降らないので、私たちにとっては大変特別な体験でした。日本の御家族との交流から多くを学びました。英語でのコミュニケーションに難しさもありましたが、それを乗り越えて、食べ物や食べ方のこと、着物の着付けや温泉、お祭りなど文化的なたくさんのこと

ムッサ・ハジ・ハリファ

について紹介し合うことができ、お土産の交換もすることができました。最終日には県庁訪問と盛岡市内観光、高校訪問をさせていただき、最後にお別れの会がありました。この会では、両参加国の青年が、それぞれの国の踊りを紹介し、受入御家族との夕食を楽しんだ後、お別れとなりました。

陸上研修

ホームステイを終え、オリンピックセンターに到着して陸上研修が公式に始まりました。レター・グループでの活動や、セミナー、ディスカッション、そのほかのイベントでPYは交流を深め、タンザニアPYも、この後に続く船上研修での学び合いの場への準備を整えていきました。国ごとに座る形でなく、席を変えていく方法は、交流を進めるのに役に立ちました。

オリンピックセンターからの外出

コース別の課題別視察や全体での国連大学訪問、都内視察、そして外出の許された自由時間で、私たちは日本のことを更によく知ったとともに、どんな可能性と課題があるのかを見聞きし、そして東京を楽しむことができました。

船上活動

にっぽん丸への乗船は、私たちにとってとても思い出に残る出来事でした。船の中はとても美しく、そのことが事業を楽しむ気持ちを高まらせてくれました。その後、船上研修が始まり、タンザニアPYは各々で絆を作り、それぞれの個性的な方法で事業に関わっていきました。

タンザニア青年団は、公式、非公式のミーティングを開き、事業中の個人目標の進捗度や、事業全体に関する評価を皆で共有しました。

ナショナル・プレゼンテーション

NPは、ほかのPYにタンザニアの位置や文化、歴史、政治、人、経済などについて知ってもらう機会となりました。アフリカからの唯一の参加国でもあり、多くのPYにとってタンザニアはなじみのない国でした。私たちのNPを通してこの国についての理解が高まりましたし、その美しさも知っていただけたため、PYにはいつか訪れてみたいという気持ちがわき起こったようです。

私たちタンザニアPYは、このNPの準備と本番に多くのエネルギーとチームワークを注ぎ込み、成功につなげることができました。

訪問国活動

インドのチェンナイで本事業の最初の訪問国活動が行われ、よく準備された企画を通してタンザニアPYは、地元の若者と交流する機会を得ました。限られた時間ではありましたが、それでも私たちはいろいろな話題で語り合い、お互いの文化の紹介もし、美味しいインド料理を楽しみ、そして人々の温かさ、特にインドのex-PYたちの温かさを感じました。

次の寄港地はスリランカでしたが、ここはチェンナイとはいろいろな面で違いました。そこで感じた落ち着いた雰囲気は、タンザニアを思い出させるものでした。地元の人々とex-PYのおもてなしと温かな歓迎が際立っていました。

コロンボでのホームビジット

コース・ディスカッションごとに行われた非常にすばらしい課題別視察のほかに、スリランカではホームビジットで地元の人と交流することができました。スリランカでのホームビジットは、日本でのものとは違った形で企画されていました。PYは、国やレター・グループとは別に三つのグループに分かれ、更に男女別に分かれてコロンボの三つの地域へと向かいました。一家庭

に二人のPYが訪問し、タンザニアPYは皆、受入家庭の親切さやおもてなしに感激させられました。PYは、訪問中に様々なことを学び、そして体験させていただきました。シンハラ語を教わったり、伝統衣装を着させてもらったり、いろいろな伝統的な食べ物をいただいたり、踊りを教わったり、寺院での宗教儀式に参加したりしました。言葉の壁はありましたが、御家族との絆を作り、共に過ごす時間を楽しみました。

締めくくりと提案

SWY28に、ほかの多くの国と同じく参加の機会を与えていただきましたことは、私たちタンザニア代表青年団にとって大きな荣誉であり、それを謹んでお受けいたしました。この事業での体験を通して、私たちの持つ無限のリーダーシップ能力が開花しました。これからは、自分自身と国のため、そして地球市民として世界のために、この能力を使ってまいります。柱となっていたセミナーに関しては、もう少し時間を取ることを提案いたします。そうすることでそれぞれのテーマに関する更に広い理解を得、ディスカッションも深めることができるでしょう。タンザニアに対して今後も本事業に参加する特権が与えられますことを心から望んでおります。私たちはSWY精神を継承し、地域やSWYAAでの何らかの活動を通して、この事業を通して体験したことや学んだことを社会に還元していく所存です。

アラブ首長国連邦

はじめに

SWYは、青年たちに一生に一度の体験の機会を与え、そこで人生や世界に関する新しいアイデアや分野、新しいものの見方に触れさせてくれる類を見ない企画です。Ex-PYとして、今回再び船での生活に戻って来ることができたのは大きな喜びでした。そして今回は経験をいかして、自分がリーダーを務めるUAE代表青年団のメンバーやほかの国の青年を育てるといふ、先回よりも大きな目的を持って参加しました。

世界の難しい現状を見るにつけ、より良い未来のためには、私たちには更なる理解と協力関係が必要です。その面で本事業は今の若い世代にも、将来の世代にとってもまさに必要なものです。将来世代の発展と平和に貢献するため、SWYAA-UAEは重要な役割を担っていくでしょう。

UAEにおける参加者選考過程には、様々な事項に関する各自の物の見方を問う筆記試験と、能力や技能、人柄、そして地域への貢献活動などについて詳細を聞く面接試験がありました。

ジャシム・アルオベイドリィ

準備期間中には、3か月間にわたって毎週面接が行われました。それは、SWYに対するPYの理解を深めるためでした。準備で扱ったものには下記のようなものがありました。

- a. 事業の内容や日程に関する説明
- b. UAEと湾岸各国のex-PYとのミーティング
- c. ナショナル・プレゼンテーション、そのほかの船上活動の準備
- d. 必要資材や民族衣装などの準備
- e. 申請関係の手続き
- f. 事業関連映像の撮影
- g. 船上生活や日本への旅に関する精神面での準備
- h. UAE政府青年関係部署とのミーティング

メンバーの誰にとっても気の抜けない期間ではありましたが、皆協力的で互いに支え合いました。その努力の結果は事業の中に反映されていました。

日本への到着

日本への行程は全て内閣府で御手配いただき、飛行機も順調でした。道中、タンザニア代表青年団、バーレーン代表青年団と出会いました。成田空港に到着し、ホテルへとこれも順調に移動しました。ホテルでは、宿泊と食事の希望などの説明がありました。

ホテルでの宿泊と最初のオリエンテーション、そして歓迎会は、事業への入り口として良い時間となりました。

ホームステイ

UAEとメキシコのPYは、滋賀県でホームステイをしました。これは、メキシコのPYと知り合う良い機会ともなりました。学校を訪問して滋賀の生徒と知り合い、その後PYは一人ずつ受入家庭のお宅におじゃましました。ホームステイに関してUAEのPYからは、全体的に良い評価が聞かれ、各PYと御家族との絆も生まれました。

IYEOメンバーと現地の若いボランティアの方々のお陰で、滋賀県訪問はとても充実し、日本文化や滋賀の歴史などたくさんの方に触れる機会となりました。お別れの会では、皆胸がいっぱいになり、滋賀県訪問の良い締めくくりとなりました。

オリンピックセンターでの陸上研修

NLやレター・グループに関しては、船上研修で触れたいと思います。

オリンピックセンターに到着するとJPYの出迎えを受け、彼らとの関係作りの良いスタートを切ることができました。JPYはとても積極的で、私たちとの出会いを喜んでくれました。私たちも同じ気持ちを持っていました。

オリンピックセンターでの研修は、若者向けのユニークな環境で活動する特別な体験になりました。宿泊場所は、タンザニアPYとの共同生活になりました。オリンピックセンターでの活動を、アイスブレイキングから始めることができたのも良かったです。

導入フォーラムは、自国の青年活動を紹介する良い機会になっただけでなく、各国のPYと知り合う良い機会にもなりました。オリンピックセンターでは、ほかにもいくつかの活動がスタートしました。アドバイザーによるセミナー、コース・ディスカッション、レター・グループでの活動、そしてPYセミナーなどです。スポーツとレクリエーションの日は、レター・グループ内のつながりを強めるものになりましたし、気分転換にもなりました。

船上活動

船での生活

船上の生活は、私がSWY25で体験したのと近いものでしたが、様々な活動に使い勝手の良い、25回の時とは違う設備や部屋もありました。朝礼での連絡は、

種々の変更や最新の情報をPYに伝えるのに有効でした。管理部カウンター（管理部の窓口）は、掲示板と並んでPYの役に立つ場所でした。船の上での生活とSWYの様々な活動という二つの要素の融合は、UAEのPYにとって、特別な体験となりました。モーニング・アッセンブリー（朝礼）では、各国の国歌を聴くことができ、これも良い経験になりました。さらに、レター・グループでの朝の活動は、一日を始めるのにとっても良いものでした。

アドバイザーによるセミナー

リーダーシップ・セミナー：様々な人生の目的について話し合うための良い道しるべを与えていただきました。また、リーダーシップに関連する様々な話題について学びました。

異文化理解セミナー：私たちが互いをどのように認識するのかを知る大変良い機会となりました。また、自分たちの期待が、全ての物事に対する受け止め方を左右することも知りました。アドバイザーの方がPYと更に接することで、彼らの文化をよりよく知り、理解も深まると思います。

プロジェクトマネジメント・セミナー：プロジェクトマネジメントに関するいくつかの情報を得ることができました。今後のための提案として、世界で共通して見られる問題に関連する実際の事業など具体的な事例を用いること、またプレゼンテーションやコンセプトをもう少し簡略化して、PYの年齢や経験に合わせることを挙げさせていただきます。

コース・ディスカッション

コース・ディスカッションはよく準備され、各ファシリテーターは各国PYの能力の向上を促してくれました。六つのコースがありましたが、どれも日本にとってもほかの国にとっても意味のあるテーマでした。コースを通して、全てのPYが各自のテーマについて学びを深めました。次回に向けて、ファシリテーターの皆様に参加情報小冊子を作ってくださいれば、様々な背景を持つPYの誰もがよりしっかりとした基礎を持ってディスカッションに臨めることと思います。

ナショナル・プレゼンテーション

各国の紹介として大変良い機会となりました。また事業の中での開催時期も適切でした。

各国主催のパーティー

各国の文化を紹介する大変良い機会でした。

PYセミナー、クラブ活動、自主活動

PYの力量を高め、他者にアプローチし、自ら進んで活動することを学ぶ大変有意義な活動でした。

レター・グループ活動

レター・グループは、PYが家族と居るかのように感じることができ、特に親しい関係を培うことのできる場です。

委員会

青年たちの力量を高め、コミュニティを形成する場でした。

寄港地

インド

インド、特にチェンナイの様々な場所を訪れる良い機会となりました。更に得るものを増やすためには、現地のコミュニティとの更なる交流が必要でしょう。

スリランカ

スリランカに寄港し、様々な場所を訪問できたのは素晴らしいことでした。訪問は、大変よく準備されており、スリランカの方々はおもてなしの心にあふれていました。ホームビジットは、スリランカの文化をより

深く理解し、現地の方々と交流するとても良い機会となりました。

ナショナル・リーダー

NLはとても仲が良く、管理部からも手厚いサポートをいただきました。

コメントと提案

- a. PYのディスカッションや交流の時間を増やすために、一部の活動は短くすることができるでしょう。
- b. NLがレター・グループのPY間のより良い雰囲気を作り出せるよう、今以上の指針やアドバイスを与えることを提案します。
- c. 飲酒を減らすことと、キャビン内での飲酒は禁止すること。これは、文化的背景の違う人たちを尊重するためでもあり、アルコールによる弊害を抑えるためでもあります。飲酒を制限することで、朝の活動への遅刻を減らし、事業の質を向上させるのにも役立つでしょう。

終わりに

最後になりますが、日本国政府内閣府と本事業管理部の皆様には感謝申し上げます。事業は非常に良く計画されており、楽しく、そして大変効果的でした。2回目のSWY参加は、本当に素晴らしい体験となりました。

船長からのメッセージ

平成27年度次世代グローバルリーダー事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」の航海を無事に終わることができ、船上にて現場指揮に当たられた上村管理官、押切副管理官、そして村田主任を始めとする管理部の皆様、また内閣府の皆様、日本青年国際交流機構及び寄港地を含めた各国の関係者の皆様方に対し、当該プログラムが成功裡に終わられたことを心よりお慶び申し上げますとともに、本船の運航に多大なる御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

須江団長並びにアドバイザーの皆様、各国ナショナル・リーダーの皆様、そして主役となられた日本及び10か国からのPYの皆様、大変御苦労様でした。

皆様には1月27日横浜港大棧橋にてにっぽん丸に御乗船いただき、翌28日の出航式の後、大勢の方々にお見送りいただき、天候にも祝福されながら横浜港を出港いたしました。出港翌日からは、残念ながら低気圧の影響により徐々に船体動揺が始まりましたが、船酔いに悩まされた方も僅かで、まずは順調なスタートを切ることができました。この季節柄心配されたバシー海峡の天候もそれほど荒天にも至らず、無事に穏やかな南シナ海に入域でき、船長として安堵したことを思い出します。

シンガポールにて補給を行い、穏やかなマラッカ海峡を通過しインド洋に入域しましたが、東寄りの追い風でさほど揺れることなくチェンナイ港とコロンボ港に無事入港できました。

所定の訪問国活動も無事に終了し、2月17日コロンボ港を出港し帰りの途に就きました。マラッカ海峡までは、東寄りの向かい風で多少の船体動揺がありましたが、若いPYの皆様は非常に元気で、既に船体動揺にも慣れたのであろうと頼もしくさえ思えました。

2月21日シンガポールにて再度補給を行い、最後の東京への航海が始まりました。今航海で一番危惧しておりました復航のバシー海峡の通過に際し、当初の天気予報では当該海域の最大波高が非常に高く、航海スケジュールの維持が難しい状況でしたが、24日午前2時頃からバシー海峡への直行コースから荒天を避けるべくルソン島西岸に針路を変え、25日未明よりルソン島西岸に沿って北上しました。時折大きな縦揺れでPYや管理部の皆様も大変船酔いに悩まされたことと思います。さすがに当日朝の食事に来られた方は約60名との報告を受けました。しかし幸いなことに、バシー海峡の荒天の予想値

にっぽん丸 船長 管 啓二

は日が経つにつれ状況が好転しつつあり、私の経験値からも航海可能と判断し、25日の午後よりバシー海峡に入域しました。自然の力は凄いものです。決して逆らってははいけません。北東からの高いウネリにより針路を北東に変えることができず、台湾南端に向け北上し、日が変わった26日午前1時には台湾南から西表島に針路を向け、無事にバシー海峡を通過できました。その後は次第に海も静かになり、2月29日午前7時45分に予定どおり東京港へ入港しました。航海が終わってしまえば、25日の荒天もPYの皆様にとりましては、貴重な経験の一つになったのではないかと考えております。ただ残念なことは、この航海を通して晴天の日が少なくPYの皆様が美しい日出や日没の風景そしてイルカなどの海洋動物とふれあう機会が少なかったことです。

さて、PYの皆様に目を向けますと、日々のコース・ディスカッションやクラブ活動、ナショナル・プレゼンテーション、各国PYとの交流、訪問国活動などで確実に成長されていく姿に大変頼もしく思い、またお互いの親密感が日に日に増していく速さに、若者の特権と言いますか、非常に羨ましくさえ思えました。生まれた国により、それぞれ文化、宗教、価値観の違いこそあれ、礼儀正しく誠意を持って、また朗らかに日々の活動に打ち込んでいく姿に感動も覚えました。

各寄港地でのレセプションにおいては、関係者の方々や多くの過去のPYの方々に御参加いただきました。当該プログラムの歴史と伝統を改めて実感することができました。

これまでの当該プログラムを経験された皆様が世界中で御活躍されており、またこれからも引き続きグローバルな環境の中で御活躍される人材輩出に資する本事業の関係各位に心より敬意を表するとともに、このにっぽん丸が少しでもお役に立てたのであれば、乗組員一同、大変光栄であります。

最後に、今回参加されたPYの皆様が、当該プログラムにて築かれた友好関係、得られた経験と知見を、今後更に確かなものにされ、様々な分野において御活躍されること、また当該事業の今後益々の御発展を心より祈念いたしまして、船長からのメッセージとさせていただきます。ありがとうございました。

アンケート結果

1. 調査方法

全PYに対して諸活動についてのアンケートを行った。
 プログラム全体については、評価会（2月27日）でアンケート用紙を配布し、回収した。
 訪問国活動については、それぞれの訪問国活動終了後の振り返り（2月12日及び17日）でアンケート用紙を配布し、回収した。

2. 回収率

100%（全PY233名中の233名の回答）
 100%（全PY233名中の233名の回答）

3. 評価方法

5段階評価（1, 3, 12-A, 12-B, 18-A, 18-B, 24は複数選択のため実数表示、14は選択回答）
 訪問国活動に対するコメントは第6章に掲載。

1 全体評価

1. あなたは、なぜこのプログラムに参加したのですか。（複数回答）

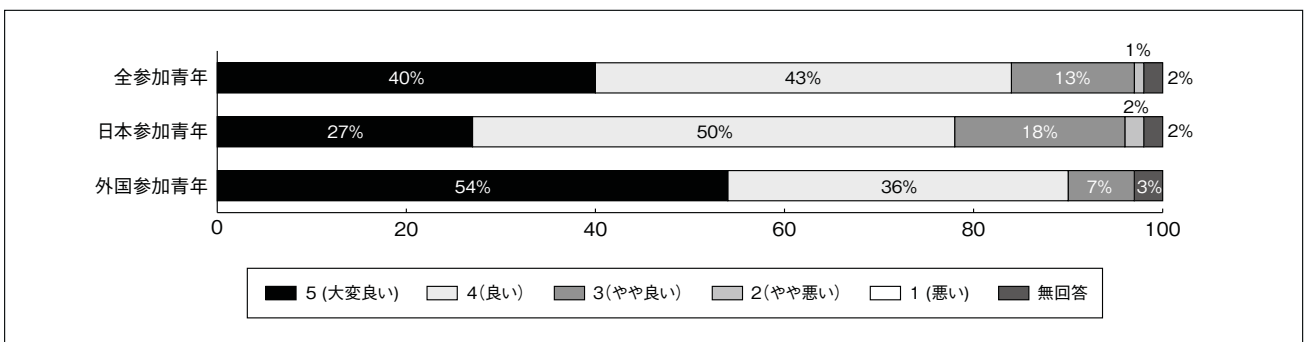
- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1) 日本を訪問するため | 6) 既参加青年に薦められたため |
| 2) 訪問国活動に興味を抱いたため | 7) 政府、職場、青少年団体若しくは学校に薦められたため |
| 3) 日本人の友人をつくるため | 8) 自己啓発のため |
| 4) ほかの国の人たちと友達になるため | 9) 仕事上のキャリアを積む若しくは地位を築くため |
| 5) 国際交流事業に興味を抱いたため | |

(人)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	無回答
全参加青年	55	65	86	166	159	93	43	163	70	0
日本参加青年	2	33	22	94	79	57	14	82	44	0
外国参加青年	53	32	64	72	80	36	29	81	26	0

2. プログラムをどのように総合評価しますか。

	5（大変良い）	4（良い）	3（やや良い）	2（やや悪い）	1（悪い）	無回答	平均
全参加青年	40%	43%	13%	1%	0%	2%	4.3
日本参加青年	27%	50%	18%	2%	0%	2%	4.0
外国参加青年	54%	36%	7%	0%	0%	3%	4.5



3. あなたは、このプログラムからどのようなことを得ましたか。(複数回答)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1) 自国と自国の文化について理解を深めることができた | 6) 多くの友人を得ることができた |
| 2) 自国に誇りを感じるようになった | 7) 物事に対する考え方が変わった |
| 3) 日本についての理解を深めることができた | 8) 転職を考えるほどに大きな影響を受けた |
| 4) 事業に参加している国についての理解を深めることができた | 9) 上記いずれでもないが、非常に有益であった |
| 5) 地球規模の問題について興味を抱くようになった | 10) このプログラムから得るものはなかった |

(人)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
全参加青年	125	137	121	196	125	161	144	63	4	2	1
日本参加青年	60	69	36	100	60	85	77	36	3	1	0
外国参加青年	65	68	85	96	65	76	67	27	1	1	1

4. あなたの事業からの最大の学びは何でしたか。

<日本参加青年>

人生の目的と方向性を定めることができた。

外国や異文化についてより多く知りより深く理解した。

自分にはどんな話題の会話にでも参加する能力があり、背景や文化の違う人々と知識を共有できるのだということを知った。

人生の目的と、他人を尊重尊敬すること。

自分自身のリーダーシップのスタイルや、自己管理・グループ運営のこと、対処戦略、そしてセミナーから得られた新たな知識など。

魂のレベルで私たちは皆同じだとしても似ているのだということ。同じ興味を持ち同じ問題を抱えているということ。

誰でもがリーダーになれるし、そのリーダーシップのスタイルはそれぞれ違うということ。仕事はお金を作る道具ではなく人生の目的を達成するための道具だということ。お金はついてくるもの。

個人個人を尊重することで、必然とその人に興味が湧き、「聴く力」が身に付いた。

参加国に対して持っていたステレオタイプが一掃されて、本当の姿を知ることができた。

失敗を恐れずに挑戦することの大切さ。

リーダーシップや自分の在り方について、ありのままの存在でいいんだと学んだ。

自分自身が何をしたいのかを改めて考えることができた。生涯を通して助け合い、支え合える友人ができた。

一人ではできないと思う課題でも、皆で協力すれば達成できるということを再認識した。

国や文化、習慣などが異なる国の人々と接するときには、常にオープンマインドでいることが重要だと学んだ。

たとえ住んでいる国や信条が違っていても、平和や友情、世界に対する想いは同じ。

10歳以上も年下のPYの中に果てしない才能を持った人がいると知った。

<外国参加青年>

それぞれの持つ倫理や政治的価値観の違いがあっても、夢や将来の社会についてのビジョンには大きな共通性があるということ。それは、平和、コミュニティ、意義のある社会的アイデンティティを享受できる未来だ。

私のしたいこと。それは、世界中の人が笑えるようにすること。

異文化や伝統を尊重し、自分自身の国に誇りを持つこと。

事業のスケジュールはとて秩序立っており、私は時間管理を学ぶことができた。

絶対に文化的背景で集団を評価せず、その人々のふるまいで評価すべきだということ。

人々をどのように力付けるか。

人間関係が、どんなことよりも格段に重要だということ。

誰でもみんな、社会に貢献し、社会に影響を与え、良い変化をもたらす力を持っているということ。日本、インド、スリランカの伝統文化とライフスタイル。

異文化間の相互理解について。私たちは違いよりも共通性の方が大きいこと。この事業の環境は理想的な世界だということ。

自分の国で起きていることをグローバルな視点から見ようになった。将来一緒に働ける人と出会った。

この事業のお陰で、世界中の人と知り合うことができた。

様々な人々や国々の間での尊重尊敬と相互理解。

背景の違う人々と一緒に物事を進めていく能力。より偏見の無いコミュニケーション。リーダーシップに関する新しい考え。

人々が共通の理解を持つことは可能だということ。時として、最大の学びは自分自身のアイデンティティに関すること、そして

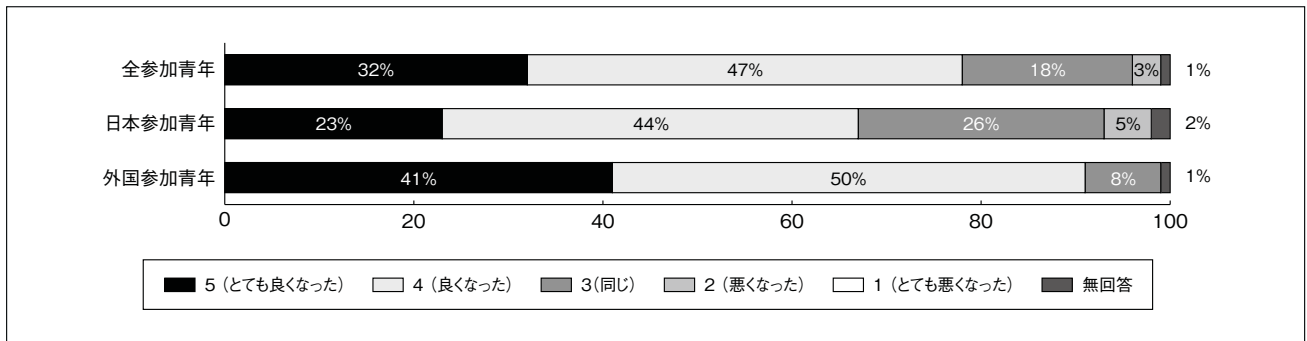
自分が世界にどのように貢献できるのかということである。

この事業からたくさんのことを学び私の人生のターニングポイントとなった。文化や伝統の違う人々とどのように接し、行動したら良いかを学んだ。

いつでも誰にでも改善や向上の機会はあるのだということ。

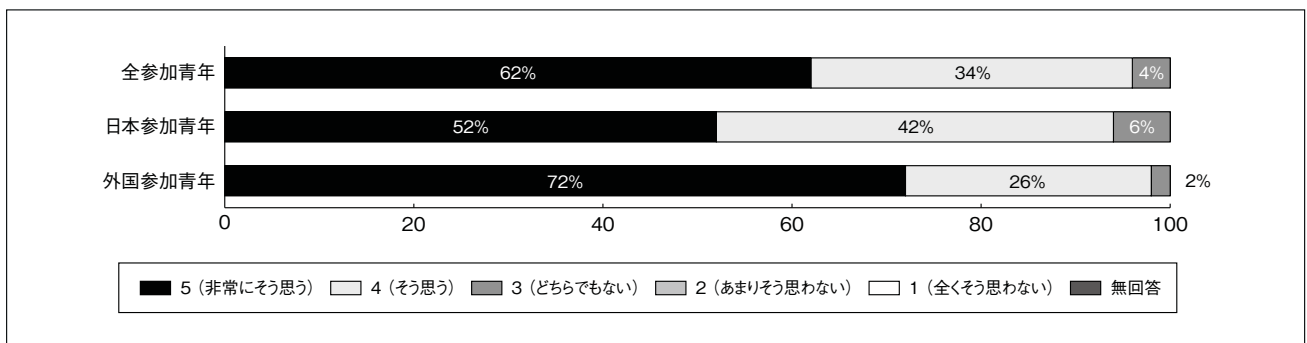
5. あなたの日本に対する印象は、このプログラムに参加したことでどのように変わりましたか。

	5 (とても良くなった)	4 (良くなった)	3 (同じ)	2 (悪くなった)	1 (とても悪くなった)	無回答	平均点
全参加青年	32%	47%	18%	3%	0%	1%	4.1
日本参加青年	23%	44%	26%	5%	0%	2%	3.9
外国参加青年	41%	50%	8%	0%	0%	1%	4.3



6. このプログラムはあなたと他国のの人々との相互理解に役立つと思いますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均点
あなたと日本の人々との相互理解	62%	34%	4%	0%	0%	0%	4.6
あなたと他国のの人々との相互理解	52%	42%	6%	0%	0%	0%	4.5
あなたと他国のの人々との友好関係を築く	72%	26%	2%	0%	0%	0%	4.7



7. あなたは、事業への参加が自己啓発に役立つと思いますか。a)からh)の各項目に回答し、番号を書いてください。

	5 (際立って役立つ)	4 (とても役立つ)	3 (役立つ)	2 (あまり役立たない)	1 (全く役立たない)	無回答	平均
a) コミュニケーション力	29%	38%	26%	5%	0%	2%	3.9
b) リーダーシップ	26%	41%	24%	6%	0%	3%	3.9
c) 問題解決能力	12%	30%	40%	12%	3%	3%	3.4
d) 異文化対応力	49%	35%	12%	1%	0%	3%	4.3
e) 自信	30%	35%	27%	4%	1%	3%	3.9
f) 計画力	14%	35%	32%	13%	3%	3%	3.4
g) ディスカッション能力	16%	36%	32%	11%	2%	3%	3.6
h) マネジメント力	12%	32%	35%	17%	1%	3%	3.4

8. この事業はあなたの仕事の将来性を高めると思えますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	42%	41%	15%	1%	0%	0%	4.3
日本参加青年	34%	50%	16%	1%	0%	0%	4.2
外国参加青年	51%	32%	15%	1%	0%	1%	4.3

9. この事業は社会貢献活動に参加したいという意欲を高めると思えますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	52%	39%	8%	1%	0%	0%	4.4
日本参加青年	40%	47%	13%	0%	0%	0%	4.3
外国参加青年	65%	30%	2%	2%	0%	1%	4.6

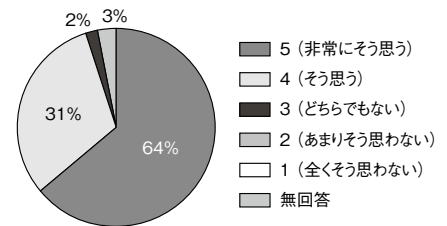
10. 事業参加を通じて、人生や社会に対する見方が変化したと思えますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	49%	39%	11%	0%	0%	1%	4.4
日本参加青年	50%	39%	9%	0%	1%	1%	4.4
外国参加青年	47%	38%	13%	0%	0%	1%	4.3

2 日本国内活動 外国参加青年のみ

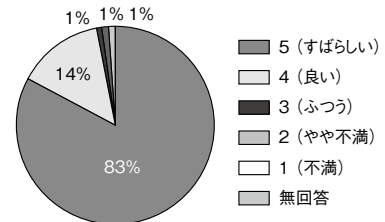
11. 地方プログラムは訪問県の歴史や文化への理解を深めるのに役立つと思えますか。

	5 (非常に そう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでも ない)	2 (あまり そう思わない)	1 (全く そう思わない)	無回答	平均
外国参加青年	64%	31%	2%	0%	0%	3%	4.6



12. ホームステイの体験はいかがでしたか。

	5 (すばらしい)	4 (良い)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
外国参加青年	83%	14%	1%	1%	0%	1%	4.8



12-A. 満足した理由(複数回答)

- 1) ホストファミリーととても良い時間を過ごすことができた
 - 2) ホストファミリーがとても親切で協力的だった
 - 3) ファミリーの生活の仕方を学ぶ良い機会だった
 - 4) 日本の文化や習慣についてたくさん学ぶことができた
- その他(具体的に)

理由	1	2	3	4	その他
外国参加青年	103	99	95	85	7

(人)

12-B. 満足しなかった理由(複数回答)

- 1) ホストファミリーが観光に連れて行ってくれなかった
 - 2) ホストファミリーがあまり世話をしてくれなかった
 - 3) ファミリーの生活の仕方を学べなかった
 - 4) 日本の文化や習慣について学ぶことができなかった
- その他の理由や問題があった

理由	1	2	3	4	その他
外国参加青年	5	1	4	6	3

(人)

3 陸上研修・船上研修

13. 全体のスケジュールはいかがでしたか。

	5 (きつすぎる)	4 (きつい)	3 (ちょうど良い)	2 (ゆるい)	1 (ゆるすぎる)	無回答
全参加青年	23%	39%	24%	4%	0%	9%
日本参加青年	17%	37%	25%	6%	0%	16%
外国参加青年	30%	41%	24%	2%	0%	3%

14. 事業期間中で最も印象深かったプログラムは何でしたか。(一つのみ選択)

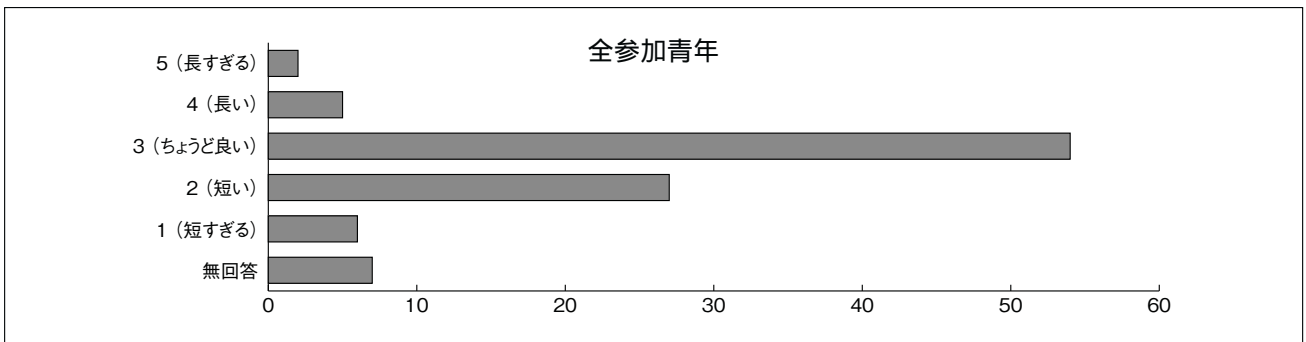
- | | |
|----------------------|------------------|
| a) コース・ディスカッション | i) 自主活動 |
| b) リーダーシップ・セミナー | j) クラブ活動 |
| c) 異文化理解セミナー | k) 委員会活動 |
| d) プロジェクトマネジメント・セミナー | l) 事後活動 |
| e) 心理学セミナー | m) スポーツ&レクリエーション |
| f) アドバイザー・セミナー | n) フェアウェル・イベント |
| g) PYセミナー | o) 訪問国活動(インド) |
| h) ナショナル・プレゼンテーション | p) 訪問国活動(スリランカ) |

(人)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	無回答
全参加青年	35	13	12	1	0	0	7	83	7	9	3	0	1	0	2	41	19
日本参加青年	17	9	2	1	0	0	4	36	4	6	2	0	1	0	2	21	16
外国参加青年	18	4	10	0	0	0	3	47	3	3	1	0	0	0	0	20	3

15. 全体の期間は異文化を理解して適応するのに十分でしたか。

	5 (長すぎる)	4 (長い)	3 (ちょうど良い)	2 (短い)	1 (短すぎる)	無回答
全参加青年	2%	5%	54%	27%	6%	7%
日本参加青年	1%	3%	45%	33%	5%	13%
外国参加青年	3%	7%	63%	21%	6%	0%



16. 各活動は全般的に相乗効果をもたらすようそれぞれ関連していたと思いますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまり そう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	13%	48%	24%	7%	0%	7%	3.7
日本参加青年	13%	36%	28%	8%	1%	13%	3.6
外国参加青年	13%	60%	21%	6%	0%	0%	3.8

A. コース・ディスカッション

17. 導入フォーラムはいかがでしたか。

	5 (すばらしい)	4 (良い)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	12%	47%	21%	12%	3%	4%	3.5
日本参加青年	12%	36%	26%	17%	6%	3%	3.3
外国参加青年	13%	58%	15%	8%	1%	5%	3.8

18. 日本で実施したコース・ディスカッションの課題別視察はいかがでしたか。

	5 (すばらしい)	4 (良い)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	29%	46%	16%	6%	2%	1%	4.0
地域づくり	22%	41%	22%	12%	2%	0%	3.7
防災	56%	42%	0%	3%	0%	0%	4.5
教育	19%	52%	21%	7%	0%	0%	3.8
環境	26%	49%	13%	3%	8%	3%	3.8
情報・メディア	34%	42%	18%	3%	0%	3%	4.1
青年起業	19%	49%	22%	8%	0%	3%	3.8

18-A. 満足した理由(複数回答)

- 1) 内容がコース・ディスカッションのテーマに沿っていた
 2) 多くの新しい知識を得ることができた
 3) ディスカッションと質疑応答が有意義だった
 4) 将来に役立てられる具体的な例を学ぶことができた
 5) 課題別視察に積極的に参加することができた
 その他

(人)

	1	2	3	4	5	その他
全参加青年	136	98	61	97	56	0
地域づくり	22	22	8	16	9	0
防災	26	21	12	21	14	0
教育	24	16	13	19	10	0
環境	23	19	7	17	8	0
情報・メディア	19	13	9	12	10	0
青年起業	22	7	12	12	5	0

18-B. 満足しなかった理由(複数回答)

- 1) 内容がコース・ディスカッションのテーマに沿っていなかった
 2) 新しい知識を得ることができなかった
 3) ディスカッションと質疑応答の時間が十分ではなかった
 4) 内容が曖昧でもっと詳しい説明が必要だった
 5) 内容がもっとインタラクティブであるべきだった(内容がもっと対話形式であれば良かった)

その他

(人)

	1	2	3	4	5	その他
全参加青年	17	30	29	21	38	0
地域づくり	5	3	8	3	11	0
防災	1	1	3	3	2	0
教育	2	6	6	2	6	0
環境	3	3	6	3	9	0
情報・メディア	0	7	4	5	4	0
青年起業	6	10	2	5	6	0

19. コース・ディスカッションのインプット(講義等)とアウトプット(ディスカッション/ワークショップ等)のバランスは取れていたと思いますか。

	5 (とても思う)	4 (思う)	3 (どちらとも言えない)	2 (あまりそう思わない)	1 (そう思わない)	無回答	平均
全参加青年	23%	36%	25%	12%	4%	0%	3.6
地域づくり	17%	34%	44%	5%	0%	0%	3.6
防災	25%	44%	19%	8%	3%	0%	3.8
教育	29%	55%	12%	2%	2%	0%	4.0
環境	23%	31%	18%	18%	8%	3%	3.4
情報・メディア	37%	32%	18%	11%	3%	0%	3.9
青年起業	5%	16%	41%	27%	11%	0%	2.8

20. コースの内容はいかがでしたか。

	5 (すばらしい)	4 (良い)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	23%	36%	25%	12%	4%	0%	3.6
地域づくり	17%	51%	22%	7%	0%	2%	3.8
防災	22%	50%	22%	3%	3%	0%	3.9
教育	36%	55%	10%	0%	0%	0%	4.3
環境	26%	21%	31%	15%	8%	0%	3.4
情報・メディア	34%	37%	21%	8%	0%	0%	4.0
青年起業	0%	24%	43%	27%	5%	0%	2.9

21. あなたのコース・ディスカッションへの参加具合はどの程度でしたか。

	5 (とても高い)	4 (高い)	3 (適切)	2 (低い)	1 (不十分)	無回答	平均
全参加青年	19%	37%	33%	9%	1%	1%	3.7
日本参加青年	11%	31%	39%	17%	2%	2%	3.3
外国参加青年	29%	44%	27%	1%	0%	0%	4.0

22. あなたの英語力は、今回のディスカッションを行うのに十分であったと思いますか。

	5 (とても十分)	4 (十分)	3 (どちらでもない)	2 (やや不十分)	1 (不十分)	無回答	平均
全参加青年	16%	32%	27%	18%	7%	1%	3.3
日本参加青年	1%	15%	36%	34%	13%	2%	2.6
外国参加青年	32%	51%	17%	0%	0%	0%	4.2

23. サマリー・フォーラムの印象はどのようなものでしたか。

	5 (すばらしい)	4 (良い)	3 (ふつう)	2 (あまり良くない)	1 (良くない)	無回答	平均
全参加青年	39%	45%	10%	3%	0%	2%	4.2
日本参加青年	36%	44%	13%	5%	0%	2%	4.1
外国参加青年	44%	47%	7%	1%	0%	1%	4.4

24. どのような活動がコースのテーマの理解に役立ちましたか。(複数回答)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1) 事前課題 | 5) 小グループでのディスカッション |
| 2) 導入フォーラム | 6) 全体でのディスカッション |
| 3) ファシリテーターによる講義 | 7) サマリー・フォーラム |
| 4) 参加青年による講義 | |

(人)

	1	2	3	4	5	6	7	無回答
全参加青年	71	23	141	89	159	84	70	1
日本参加青年	22	5	73	47	78	33	36	1
外国参加青年	49	18	68	42	81	51	34	0

25. コース・ファシリテーターをどのように評価しますか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	51%	30%	11%	5%	2%	1%	4.3
地域づくり	63%	32%	2%	0%	0%	2%	4.6
防災	56%	31%	6%	8%	0%	0%	4.3
教育	88%	12%	0%	0%	0%	0%	4.9
環境	33%	36%	21%	5%	5%	0%	3.9
情報・メディア	58%	29%	8%	3%	0%	3%	4.5
青年起業	3%	46%	32%	14%	5%	0%	3.3

B. リーダーシップ・セミナー

26. リーダーシップ・セミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	40%	46%	12%	1%	0%	0%	4.3
日本参加青年	45%	43%	10%	1%	0%	1%	4.3
外国参加青年	34%	49%	15%	2%	0%	0%	4.2

27. このセミナーで学んだスキルや考え方はグローバル・リーダーになるのに役立つと思いますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	38%	42%	15%	4%	1%	0%	4.1
日本参加青年	39%	45%	14%	2%	0%	1%	4.2
外国参加青年	37%	40%	15%	6%	2%	0%	4.0

28. リーダーシップ・セミナーのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

「後ろから支えるリーダーシップ」や「横から助けるリーダーシップ」など、これまで気付いていなかったことを学んだ。

自分の持っている情熱を見付けることができたこのセミナーはとても満足感が高かった。自分の人生を再評価し、意欲的なリーダーとしての役割について考えることができた。

このセミナーは、それぞれの持っているリーダーシップの立ち位置と、ほかの人々をリードする方法について学ぶ上でとても役に立った。船の上では得た知識を実際に使ってみる機会があったので、この点はとても重要だった。

とても満足している - 批判精神を持って自分自身を振り返るといふ部分、そして自分がどんな種類のリーダーなのかを考えるという部分。

時間管理の方法や、様々な国の参加者から成るグループをリードする方法について話し合った。

自信を付ける上でとても良いセミナーだった。

私は、リーダーシップの経験がとても豊富なので、このセミナーの内容は既に知っているものだった。リーダーシップについて学び始めた人には役に立っただろう。

榎本先生は大変素晴らしいアドバイザーで、セミナーもとても良かった。しかし、私にとって何か新たな学びがあったかという点では定かではない。

リーダーシップセミナーの中身が薄く感じた。リーダーになるためのツールを学びたかった。

リーダーになるための方法と、周囲の人をどのように鼓舞するかを学んだ。

私は今まで皆の前で話せるタイプではなく、リーダーとは程遠いと思っていたが、リーダーにもいろいろな種類があることを知って、自分もリーダーなのだと思えることができた。

誰かを目標にするのは良いことだが、他の人になろうとして自分が誰なのかを見失うと他に良い影響を与えるリーダーにはなれない。

今までは会社や団体の役職としてのリーダーという形にとらわれていたことに気付いた。

「一人一人がリーダーだ」という講義を聞き、その後の活動がとても実行しやすかった。講義の内容をすぐにSWYの生活にいかすことができたのが良かった。

C. 異文化理解セミナー

29. 異文化理解セミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	49%	40%	9%	1%	0%	0%	4.4
日本参加青年	40%	43%	14%	2%	0%	1%	4.2
外国参加青年	59%	37%	4%	0%	0%	0%	4.5

30. このセミナーで学んだスキルや考え方はグローバル・リーダーになるのに役立つと思いますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	36%	47%	16%	1%	0%	0%	4.2
日本参加青年	30%	48%	20%	2%	0%	0%	4.0
外国参加青年	43%	46%	12%	0%	0%	0%	4.3

31. 異文化理解セミナーのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

元々国際文化を学んでいるため、日本との比較をしながらの授業が興味深かった。今度は更に異文化理解を直接、肌で体験(留学)したいと思った。

一番の学びは文化の融合だった。国単位であっても、個人であっても、大切なことは他人の考えや文化を理解し、自分の考えもきちんと把握した上で尊重することだ。

自国の文化を相手に理解してもらっただけではなく、相手の文化を受け入れることでより良い関係が作れることを学んだ。その上で、どうしても起こってしまう障害やミスコミュニケーションなどを実際のこの船での生活と照らし合わせながら考えたことで、より理解が深まった。

異文化とは何か分かったけれど、異文化の「異」になる境が私には難しかった。きっと人々がそれぞれ違うように、「異」はあちこちに散在しているだろうけれど、「文化」というカテゴリーの中で「異」をどこからと判断するのか分からなかった。

これまで知らなかった文化に意識を開かれ、それらの文化について学ぶことができた。人生で一番大切なことは、他人の文化を理解し尊重するという事、そして皆が他人の文化を理解し尊重することで、世界をより良くすることは可能なのだということ学んだ。

私はこのセミナーが一番良かった。実生活で使うことのできるツールを教えてください、地球市民としての考え方を広げ、それによって異文化とより適切に接するというのも時宜にかなっていた。

アドバイザーの話には、とても引き込まれた。異文化理解や異文化とのコミュニケーションに関する新たな視点を与えてくれた。セッションが3回しかなかったのは残念だった。単なるレクチャーだけでなく文化や国籍の違う人とのやり取りを通して情報や知識を得る形になっていて、予想以上に興味深く有益なセッションだった。

私が一番満足したのは、違った文化背景を持つ人々がより深く異文化を理解するためのコミュニケーションの大切さという点だ。

私個人としては、内容がとても基礎的なものであった。というのも、私は母国では文化大使を務めるなど、様々な分野に深くかかわっているからである。ほかの多くのPYにとっては得るもののあるセミナーだったとは思っているので、この事業の大切な要素であることは間違いない。

異文化との間でのビジネス手法や実際的な内容など、もっと深いテーマについて学べることを期待していた。

内容に偏見がある。特に日本に関する部分。

12時間もあれば相当深い理解を得られると思うが、実際には常識の範囲内のものだった。

異文化理解に関するベーシックな話が多く、宗教や歴史など、少し踏み込んだ議論があっても良いと感じた。

D. プロジェクトマネジメント・セミナー

32. プロジェクトマネジメント・セミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	6%	26%	30%	23%	15%	0%	2.8
日本参加青年	6%	27%	32%	23%	11%	1%	2.9
外国参加青年	5%	24%	29%	22%	20%	0%	2.7

33. このセミナーで学んだスキルや考え方はグローバル・リーダーになるのに役立つと思いますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (どちらでもない)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	8%	28%	33%	20%	10%	1%	3.0
日本参加青年	9%	36%	32%	16%	6%	2%	3.3
外国参加青年	7%	20%	33%	25%	15%	0%	2.8

34. プロジェクトマネジメント・セミナーのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

初めて聞いた内容だったので、これから行う様々な活動に応用できると思った。英語では理解しきれなかったが、補習で理解することができて良かった。

絶対的に有効な思考のフレームワークがあるわけではなく、型を「いかに利用していけば良いのか」について考えさせられた。防災活動のプロジェクトを計画するときに、セミナーで学んだことがいかされた。

少し難しかったけれど、アドバイザーの講義を通して、マネジメントの考え方が分かった。一つのプロジェクトの成功に向けて、皆でディスカッションしたのは、とても良い経験になった。

今までどうやってプロジェクトを組み立てていくか考えたことがなかったので、スキルを得るという意味でとても有益だった。私は、心からプロジェクト設計の方法を学びたいと思っていた。いろいろと難しいこともあったが、このセミナーから多くを得ることができた。

アドバイザーの熱意と授業方法が強く印象に残った。実際にプロジェクトを立ち上げてみることやケーススタディから学ぶという実際的な方法は、とても役立つ。

グループの中で議論に時間を取り、実際にプロジェクトを作ってみたので、自信を付けることができた。私は、コミュニティを活性化するプロジェクトを作るのが好きなのだということに気付いた。

プロジェクトの立案や実施の方法を学んだ。与えられた課題についてレター・グループのメンバー全員で議論するのは難しかった。課題のいくつかには現実的でない点があり、議論が混乱した。

プロジェクト・デザイン・マトリックスがとても満足 of いく学びだった。

セミナーの内容自体は興味深く有益なものだったが、進め方が単純過ぎたしプロジェクト作成の課題に時間を使い過ぎていた。

アドバイザーの話された過程は有益だと思うが、完全には理解できず、私にとっては難しかった。

このセミナーは、ほかと比較して特に強い魅力は無いものだった。というのも、扱われたテーマが私の既に知っていることだったからだ。そしてあまり意味の無いアクティビティに時間を使い過ぎていた。

内容には満足できたが、説明が簡潔ではなく理解できないこともあった。

プロジェクトマネジメントは必須のスキルと感じており、ログフレームも非常に有効な手法だと感じた。ただ、積上げで考える必要のある内容を無理にグループワークにせず、個人ワークで、座学でしっかりと身に付けるようなセミナーの構成もあり得たのではないかと感じた。

E. 心理学セミナー

35. 心理学セミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	14%	39%	33%	11%	2%	2%	3.5
日本参加青年	15%	29%	41%	10%	2%	2%	3.4
外国参加青年	13%	49%	23%	12%	2%	2%	3.6

36. 心理学セミナーのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

難しい状況でもオープンに話してくれるアドバイザーの人柄がとても良かった。仕事上のストレスに対処する方法などを使ってみることができ、船での生活でいららする状況を作るのを防ぐという意味で、私たちの役に立つものだった。

ここで学んだテクニックを将来使うことができるかもしれないので、このセミナーは気に入った。

表に出ている人や前に出ている人が目立つし魅力的に映るので、見ていて焦りを感じてばかりだった。このセミナーで、無理して自分の性格、能力と全く違う人になろうとしなくていいのだ、ということを知り、気持ちが楽になった。

興味をもって聞くことができた。異文化理解の際に生じるストレスなど、異文化理解セミナーと関連付けて面白いと思った。船の中での過ごし方や、やらなければいけないこと、してはならない基本的な内容を学ぶことができた。

セミナーを聞いているときは、「まさか自分がメンタル的に病むことはないだろう。」というスタンスで聞いてしまったのが反省点。実際、毎日楽しく過ごすことはできたけど、もう少し主体的になるべきだった。

F. アドバイザー・セミナー

37. 2月7日のアドバイザー・セミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	25%	46%	20%	5%	2%	2%	3.9
日本参加青年	21%	36%	29%	8%	3%	3%	3.6
外国参加青年	29%	58%	10%	2%	1%	0%	4.1

38. アドバイザー・セミナーのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

アドバイザーのこれまでの人生や、今情熱を感じていることについて聞くのは興味深かった。

アドバイザーの個人的な生活を垣間見、それぞれの活動について知ることができたので、このセミナーは本当に楽しかった。それぞれの内容がとても多様であったこと、そしてアドバイザーの方々により個人的な面を知ることができたのがすばらしかった。

セミナーでは扱われなかった話題にも触れられたので、アドバイザーの方々についてより深く知るとても良い機会だった。

「トランジションタウン」など、社会の発展に役立つ新しいテーマについて学ぶことができた。

学生生活を普通に過ごしていたら、なかなか出会うことができないような先生方なので、パーソナルな話を聞けて良い機会になった。

全員、いろんな局面を乗り越えて今に至っているのが共通していると思った。正解にまっすぐにたどり着こうとすると難しいけれど、少しずつ試していくことが次のステップにきつとつながっているのだろうと思えた。

皆さんの経歴が興味深かった。心そのままに行動して今に至っているのがすてきだし、格好がいいと思う。スタンダードな道を進む必要はないと思うことができ、キャリアへの考えも少し変わった。

皆さんがどのような思いでどんな経験を経て、今の考え方に至ったのか。逆にアドバイザーの方たちようになるには計り知れない努力と経験の積み重ねが必要だと認識した。

G. PYセミナー

39. PYセミナーの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	24%	55%	17%	3%	1%	0%	4.0
日本参加青年	29%	50%	17%	2%	1%	1%	4.0
外国参加青年	19%	60%	16%	4%	1%	0%	3.9

40. セミナーの準備と実施を通じてリーダーシップやマネジメントのスキルをどの程度高めることができましたか。

	5 (かなりできた)	4 (できた)	3 (ふつう)	2 (あまりできなかった)	1 (できなかった)	無回答 (実施していない)	主催者平均
全参加青年	15%	21%	10%	2%	0%	52%	4.0
日本参加青年	18%	23%	15%	2%	0%	42%	4.0
外国参加青年	13%	18%	5%	3%	0%	62%	4.0

4.1. PYセミナーから何を学びましたか。どのテーマが興味深かったですか。

ワーク・ライフバランス	私の生きる上での真の責任を理解することができた。とても良く準備されていて、分かりやすかった。
難民問題を考えよう	内容は興味深く、担当PYはこのテーマについての知識が豊富だった。
映画「ラスト・サムライ」を通じて考えた三つのこと	日本文化と日本人の生き方についての理解を深めてくれた。
ペットボトルのカヤック	環境保護への理解を、アクティビティという楽しいことと結び付けることによって、やる側も遊びながら社会貢献ができる仕組みがすてきだと思った。何よりも、主催者の本気、ワクワク感が伝わるスライド、話し方に非常に魅せられた。
理想的なCSRとは何だろう	日本で誤解されている狭いCSRの考え方に対して、そもそものSocial Contribution (社会貢献) の定義や要件などの指摘をOPYから受けたことで、主催者は厳しさを感じたと思うが、全体としての学びは多い有意義なセミナーだったと感じている。
プロジェクトを通して行う国際協力活動	ボランティアというと、現在あるチームに参加するというのが一般的だが、自ら活動内容を決め動かすということが本当にすごいと思った。学生だからこそ分かるニーズがあり、できることがあると改めて思った。
教育的なリーダーシップと青年の関与	自分自身の性格や特徴について考え知ることができた上に、自分以外の人の性格や特徴について深く理解することができた。自分の考え方以外の考え方を知ること、視野が広がった。
私たちはどう政治に参加すればいいか平和の作り方	枠のみが用意してあり後は全て自由なので、リーダーシップを発揮できた。同じ関心を持つ友人とつながることができた。ファシリテーターとしてのスキルの練習になった。
平和の作り方	人によって平和をどのようにとらえるかが異なっていることを知り、また、異なる欲求が衝突したときに、妥協ではなく超越という解決があることを知った。
社会を変えるマイノリティ	私が最も関心のあるtopicの一つであり、実際に受講してみると、LGBTについて知識のある者となない者との間が顕著に分かれ、また、主催者側の情報提供の難しさもよく分かった。私も今後、団体で講演を行うことがあるが、確かな知識を深く身に付け、対象を確実にしぼり、確実に届くような講演にしたい。

H. ナショナル・プレゼンテーション

4.2. ナショナル・プレゼンテーションの内容はいかがでしたか。

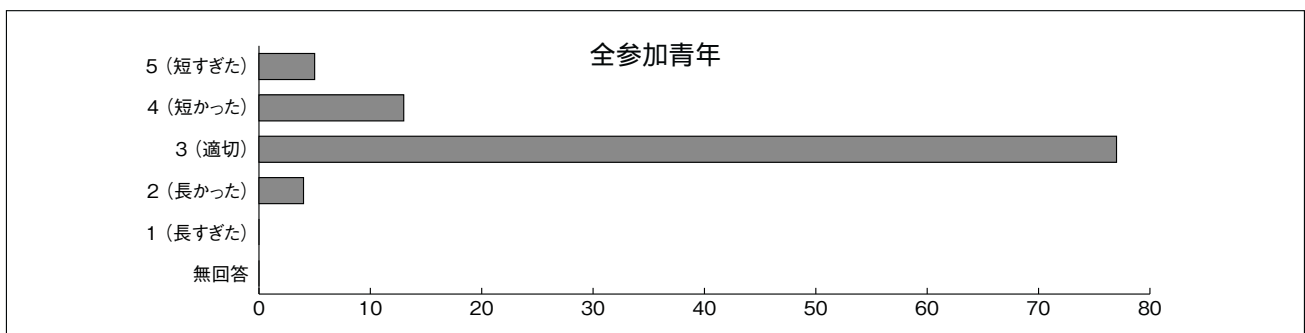
	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	70%	27%	2%	0%	0%	0%	4.7
日本参加青年	69%	27%	2%	1%	0%	0%	4.7
外国参加青年	71%	27%	2%	0%	0%	0%	4.7

4.3. ナショナル・プレゼンテーションはどの程度文化の多様性と多民族性という価値観を理解する助けになりましたか。

	5 (かなり助けになった)	4 (助けになった)	3 (ふつう)	2 (あまり助けにならなかった)	1 (助けにならなかった)	無回答	平均
全参加青年	64%	28%	7%	0%	0%	1%	4.6
日本参加青年	61%	30%	8%	0%	0%	1%	4.5
外国参加青年	68%	26%	5%	0%	0%	1%	4.6

4.4. ナショナル・プレゼンテーションに配分された時間は適切でしたか。

	5 (短すぎた)	4 (短かった)	3 (適切)	2 (長かった)	1 (長すぎた)	無回答
全参加青年	5%	13%	77%	4%	0%	0%
日本参加青年	8%	7%	77%	6%	1%	1%
外国参加青年	2%	19%	78%	2%	0%	0%



I. 自主活動

45. 活動の準備と実施を通じてリーダーシップやマネジメントのスキルをどの程度高めることができましたか。

	5 (かなりできた)	4 (できた)	3 (ふつう)	2 (あまりできなかった)	1 (できなかった)	無回答 (実施していない)	実施者平均
全参加青年	17%	22%	10%	2%	0%	48%	4.1
日本参加青年	20%	21%	15%	2%	0%	41%	4.0
外国参加青年	14%	22%	5%	2%	0%	56%	4.1

46. どの自主活動が一番良かったですか。

早分かりイスラム	現在の世界状況にとってもマッチした内容だった。SWYは、メディアでの扱い方とは違ういろいろな個人の見方を知ることのできる機会だ。
星空観賞会	話をしてくれた人は知識が豊富で、しかも情熱を持っていた。
酒大学	日本酒作りの最初から最後までを知ることができた。さらに、酒の造られている県や、その味も知った。
和太鼓	とてもエネルギーにあふれ、楽しく、そしてとても日本的だった。
スポーツと暴力	暴力根絶の手段としてのスポーツについて、主な例を知ることができた。
タレントショー	とても面白かった。この企画のお陰で、たくさんの隠された才能が皆に知られることになった。
茶道	お茶の作法からお茶を飲むところまで、日本の繊細な感覚を世界に伝えられていると感じた。
折り紙	リーダーシップを発揮できる良い機会だった。折り紙の文化を共有でき、参加者も楽しんでくれて良かった。
UAEの環境	UAEが環境、エネルギーに力を注いでいることが良く分かった。日本が持っているUAEのイメージと全く違うUAEを知ることができた。

J. 文化紹介(クラブ)活動

47. クラブ活動の内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	46%	45%	6%	1%	0%	1%	4.4
日本参加青年	49%	38%	11%	1%	0%	2%	4.4
外国参加青年	43%	54%	2%	1%	0%	1%	4.4

48. どのクラブ活動に参加しましたか。(コメント)

メキシコの張り子人形クラブ	創造性の自由な発露の場になる様子や生と死に関する文化的な共通性の深まる様子がとても好きだった。
カバ・ハカ・クラブ	これまでに見たものの中で一番強いエネルギーの流れを感じた。マオリの文化について学んだ。
スワヒリ・クラブ	主催者としてかわり、その準備を通して組織能力や自分自身の時間管理を向上させることができた。
サルサ・クラブ	とてもよく準備されており、楽しかった。主催者がとても良かったので、クラブ活動はとてもうまくいった。
着物クラブ	主催者は、着物の美について細部にわたる知識を持っていた。踊りや折り紙も教えてくれた。
スリランカ・クラブ	ダンス、歌、ランタンの作り方を学んだ。エキシビションの前には、スリランカメンバーが何度も練習につきあってくれて、本当にありがたかった。スリランカのダンスと歌がとても好きになった。
Band On the Ship (船上の音楽バンド)	1か国の青年と親交を深めることはできなかったが、もっと広くて深いところでのつながりを音楽を通して作れた。セッションをしたり、フィーリングで合わせたりするのは初めてだったが、自分で表現することを学べたのは、本当に大きいと感じている。
田植え踊り	私は日本語・日本文化を専攻しているが、田植え踊りのことは聞いたことが無かった。田植え踊りをテーマに卒業論文を書きたいと思う。

K. 委員会活動（参加青年のみ）

49. 委員会の一員としてどの程度貢献できましたか。

	5 (大いに貢献できた)	4 (貢献できた)	3 (ふつう)	2 (あまりできなかった)	1 (できなかった)	無回答	平均
全参加青年	20%	46%	18%	8%	1%	6%	3.8
日本参加青年	13%	44%	26%	13%	1%	3%	3.6
外国参加青年	28%	49%	10%	3%	1%	10%	4.1

50. 委員会はその役目をどの程度果たしましたか。

	5 (大いに果たした)	4 (果たした)	3 (ふつう)	2 (あまり果たさなかった)	1 (果たさなかった)	無回答	平均
全参加青年	24%	42%	20%	6%	1%	6%	3.9
日本参加青年	20%	45%	26%	6%	2%	2%	3.8
外国参加青年	29%	40%	14%	5%	1%	10%	4.0

51. 委員会の活動を通じてリーダーシップやマネジメントのスキルをどの程度高めることができましたか。

	5 (かなりできた)	4 (できた)	3 (ふつう)	2 (あまりできなかった)	1 (できなかった)	無回答	平均
全参加青年	21%	34%	26%	12%	2%	5%	3.6
日本参加青年	17%	34%	32%	14%	2%	2%	3.5
外国参加青年	27%	34%	19%	9%	3%	9%	3.8

L. 事後活動セッション

52. 事後活動セッションの内容はいかがでしたか。

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
全参加青年	25%	49%	17%	6%	1%	1%	3.9
日本参加青年	19%	44%	23%	11%	2%	1%	3.7
外国参加青年	32%	55%	10%	2%	0%	1%	4.2

53. このセッションの後、社会貢献活動に携わりたいという意欲がどの程度高まりましたか。

	5 (かなり高まった)	4 (高まった)	3 (ふつう)	2 (あまり高まらなかった)	1 (高まらなかった)	無回答	平均
全参加青年	40%	36%	18%	4%	1%	1%	4.1
日本参加青年	30%	32%	29%	6%	2%	2%	3.8
外国参加青年	51%	39%	6%	3%	0%	1%	4.4

54. 事後活動セッションのどの点に満足し、あるいは満足しませんでしたか。

時間がかなり長かったが、内容は興味深かった。PYが全員でアイデアや希望、夢などを語り合えたこと、そしてそれらに向けた取り組み方や、それらを実現させるための方法を話し合えたのはとても良かった。

とてもやる気を起こさせてくれるものだった。Ex-PYの生き方からいろいろと学ぶことができた。事業の終わった後に、どのように社会に貢献できるのかを知る助けになった。社会のためにできることについての私たちの知識を深めてくれた。

参加型のブレインストームが良かった。そのお陰で、皆のエネルギーややる気を引き出し、帰国後の活動へのアクションプランへとつなげることができた。

熟考型の部分が特に良かった。そしてなんとと言っても、将来のプロジェクト計画に向けてほかのPYと最初の一步を踏み出すことができたのが良かった。

私が一番気に入ったのは、管理部の方が経験談を語ってくれたことだ。とてもやる気を起こさせ、夢に向かって歩き続けるよう勇気付けてくれるものだった。そして、事業の終わりが経験の終わりではなく、始まりなのだということを教えてくれた。

SWYの後にも私たちの「生活」が続くことに目を向けさせてくれて、その生活に順応しやすくしてくれた。

Ex-PYの方がセッションをしたことが、セッションに現実感を与えたと思う。単純にやりたいことを考えて共有するだけなら実際下船後に実現させることは難しいだろうと思ったが、具体的なことまで話し合い、計画したので、確実にその後につながるものになると思う。

今の自分は何に興味があって、SWYが終わってから何を行いたいかを再発見することができた。

Ex-PYの話を聞き、船を下りてから、今のモチベーションを保つことは簡単ではないが、それを保つことこそ、事業に参加した意味だと思えた。

事後活動についての考えを深められる非常に良い機会となった。自分のしたいボランティア活動をどのように具体化すればよいのか分からなかったが、似たようなアイデアを持ったPYたちと話し合うことで、様々なアイデアができ、今後の活動に対して具体的なイメージができた。

SWYが終わってから、自分はどのような形で貢献することができるのかを改めて考えるきっかけになった。

M. 比較集計

5.5. 各種活動の内容はいかがでしたか。

全参加青年

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
コース・ディスカッション	23%	40%	24%	10%	3%	0%	3.7
リーダーシップ・セミナー	40%	46%	12%	1%	0%	0%	4.3
異文化理解セミナー	49%	40%	9%	1%	0%	0%	4.4
プロジェクトマネジメント・セミナー	6%	26%	30%	23%	15%	0%	2.8
心理学セミナー	14%	39%	33%	11%	2%	2%	3.5
アドバイザー・セミナー	25%	46%	20%	5%	2%	2%	3.9
PYセミナー	24%	55%	17%	3%	1%	0%	4.0
ナショナル・プレゼンテーション	70%	27%	2%	0%	0%	0%	4.7
クラブ活動	46%	45%	6%	1%	0%	1%	4.4
事後活動セッション	25%	49%	17%	6%	1%	1%	3.9

日本参加青年

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
コース・ディスカッション	26%	40%	21%	12%	2%	1%	3.8
リーダーシップ・セミナー	45%	43%	10%	1%	0%	1%	4.3
異文化理解セミナー	40%	43%	14%	2%	0%	1%	4.2
プロジェクトマネジメント・セミナー	6%	27%	32%	23%	11%	1%	2.9
心理学セミナー	15%	29%	41%	10%	2%	2%	3.4
アドバイザー・セミナー	21%	36%	29%	8%	3%	3%	3.6
PYセミナー	29%	50%	17%	2%	1%	1%	4.0
ナショナル・プレゼンテーション	69%	27%	2%	1%	0%	0%	4.7
クラブ活動	49%	38%	11%	1%	0%	2%	4.4
事後活動セッション	19%	44%	23%	11%	2%	1%	3.7

外国参加青年

	5 (大変良い)	4 (良い)	3 (どちらでもない)	2 (あまり良くない)	1 (悪い)	無回答	平均
コース・ディスカッション	20%	40%	29%	8%	4%	0%	3.6
リーダーシップ・セミナー	34%	49%	15%	2%	0%	0%	4.2
異文化理解セミナー	59%	37%	4%	0%	0%	0%	4.5
プロジェクトマネジメント・セミナー	5%	24%	29%	22%	20%	0%	2.7
心理学セミナー	13%	49%	23%	12%	2%	2%	3.6
アドバイザー・セミナー	29%	58%	10%	2%	1%	0%	4.1
PYセミナー	19%	60%	16%	4%	1%	0%	3.9
ナショナル・プレゼンテーション	71%	27%	2%	0%	0%	0%	4.7
クラブ活動	43%	54%	2%	1%	0%	1%	4.4
事後活動セッション	32%	55%	10%	2%	0%	1%	4.2

4.1 インド訪問国活動（チェンナイ）

56. 訪問国活動はインドの歴史、現状、文化、国民への理解を深める助けになると感じますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (やや満足)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	24%	44%	25%	8%	0%	0%	3.8
日本参加青年	28%	36%	27%	8%	1%	0%	3.8
外国参加青年	19%	52%	22%	7%	0%	0%	3.8

57. カラクシェトラ芸術学院への訪問には満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	38%	38%	21%	3%	0%	0%	4.1
日本参加青年	30%	38%	26%	4%	1%	1%	3.9
外国参加青年	46%	38%	15%	2%	0%	0%	4.3

58. コース・ディスカッション別課題別視察には満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	25%	27%	30%	16%	3%	0%	3.6
地域づくり	37%	32%	24%	5%	2%	0%	4.0
防災	11%	36%	33%	19%	0%	0%	3.4
教育	44%	24%	20%	7%	2%	2%	4.0
環境	10%	23%	31%	28%	8%	0%	3.0
情報・メディア	26%	26%	26%	21%	0%	0%	3.6
青年起業	16%	22%	46%	14%	3%	0%	3.4

59. ラジブ・ガンディー国立青年育成機構(RGNIYD)への訪問には満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	34%	38%	22%	6%	0%	0%	4.0
日本参加青年	30%	37%	25%	8%	0%	0%	3.9
外国参加青年	38%	38%	18%	4%	1%	1%	4.1

4.2 スリランカ訪問国活動（コロンボ）

60. 訪問国活動はスリランカの歴史、現状、文化、国民への理解を深める助けになると感じますか。

	5 (非常にそう思う)	4 (そう思う)	3 (やや満足)	2 (あまりそう思わない)	1 (全くそう思わない)	無回答	平均
全参加青年	60%	33%	6%	1%	0%	0%	4.5
日本参加青年	58%	33%	6%	3%	0%	0%	4.5
外国参加青年	62%	33%	5%	0%	0%	0%	4.6

61. コース・ディスカッション別課題別視察には満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	48%	33%	12%	4%	0%	2%	4.3
地域づくり	24%	34%	29%	10%	0%	2%	3.8
防災	50%	44%	3%	0%	0%	3%	4.5
教育	69%	21%	5%	0%	0%	5%	4.7
環境	41%	44%	15%	0%	0%	0%	4.3
情報・メディア	69%	25%	3%	0%	0%	3%	4.7
青年起業	35%	30%	16%	16%	3%	0%	3.8

6.2. 国家青年サービス評議会(NYSC)での活動には満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	52%	33%	13%	1%	0%	1%	4.4
日本参加青年	43%	35%	19%	1%	0%	2%	4.2
外国参加青年	61%	31%	6%	2%	0%	0%	4.5

6.3. ホーム・ビジットには満足しましたか。

	5 (大満足)	4 (満足)	3 (やや満足)	2 (やや不満)	1 (不満)	無回答	平均
全参加青年	67%	21%	10%	1%	0%	2%	4.6
日本参加青年	73%	18%	8%	1%	0%	1%	4.6
外国参加青年	59%	25%	12%	1%	0%	4%	4.5

5 自由記述

<良かった点>

私の人生を変えてくれたこと、そしてこの機会を与えてくれたことを日本国政府に感謝している。地元に戻って、本当の变革のために活動し始める準備ができていると感じている。

SWYが私の人生を変えてくれたことは明らかだ。この機会を得られたことに本当に感謝している。人類の将来は明るい。これから現実の社会に戻って世の中を良くしていくための本当の活動を始める233人のPYがいることを考えると、特にはっきりとそう言える。

この事業はすばらしく、人生を変えるような経験だ。私の成長を助け、世界の様々な状況や世界の見方、そして参加各国の人々の生活についての理解を深めてくれた。

私がこれまでに参加した中で最高の事業の一つだった。この事業は、世界の人々と知り合う独特の機会を提供している。私の人生の一つのターニングポイントとなった。事業を通して、新しいアイデアをたくさん取り入れることができたので、これから国へ帰って、自分がかかわっている青年コミュニティを対象に創造性のある事業を展開したい。

この事業のお陰で、自分の居心地の良い範囲からいろいろな形で一歩踏み出すことができ、これまで経験したことのない形でほかの国々と有意義なつながりを作ることができた。

社会のために良い活動をしたいという気持ちが高まった。事業のお陰で、これからどんなことが起こってほしいかをはっきりと意識できるようになったし、今私に何ができるのかもはっきりとイメージできる。

SWYは、世界一の青年育成事業だと心から言える。全てのPY、アドバイザーの皆さん、そして日本国政府に「ありがとう」と言いたい。

事業のお陰で、これからの世界を担う若いリーダー仲間と知り合うことができた。

この事業は、人生を変えるようなすばらしいものだ。私の思考や態度に変化をもたらしてくれた。企画・実施されている皆さん、本当にありがとう。

大海原に浮かぶ船で世界中の人々と一緒に過ごすことは、本当にすばらしくほかではできない体験だ。そこでは、自然と本当の意味で一体化し、人間の本当の心に帰り、周りの人々とつながることができる。

地球上のいろいろな場所に友達がいるという感覚はすばらしい。SWYのネットワークはとても強そうなので、世界にたくさんの良いことや平和をもたらすために活用されると信じている。

自分の能力を伸ばそうと努力する全てのJPYを尊敬する。

この事業から多くを学び、私の人生のターニングポイントとなった。自分には想像以上の力があるということも分かった。祖国と世界のために、貢献していきたい。

私は、人生に一度の貴重なこの機会を与えて下さったことについて、日本国政府に一生感謝し続けるだろう。この事業は、世界最強の交流プログラムの一つと言えると思う。全てに感謝する。

この事業で得た最大の価値は、JPYもOPYも含めて世界中のすばらしい青年リーダーと出会ったことだ。セミナーやコース・ディスカッションなどのほかのどんな部分にも増して大きな成果だった。ほかのPYと深い話をする時間が少ないと感じる。

自分の暮らす社会の中でもっと活発に動きたいと思う。国際的なテーマについてもっと勉強し、英語力も伸ばしたい。

世界を良くし、各国間の相互理解を深めるこの事業のようなものが、もっと増えることを期待する。

世界をより良くする取組であるSWYの航海が、決して終わらないことを願う。なぜなら、私自身本当にたくさんのことをこの事業から学んだし、ほかの多くの人々もそうだろうと思うからだ。世界を一つにし、何が本当に大切なのかに気付かせてくれた。クラブ活動を通して、企画能力や時間管理の能力を伸ばすことができた。また、内容の準備や活動の企画を通して、自分自身の時間の使い方もうまくなった。

異文化を学ぶだけでなく、自分という存在を見直すとても貴重な機会だった。今までは夢でしかなかったものが、様々な人々との交流、意見交換を通じて、実現へと一歩ずつ進み始めるきっかけになった。

他の10か国がそれぞれの国旗や国歌に愛着を持っているのに比べ、日本人のそれがあまり感じられないのはどうしてだろうという疑問を持った。モーニング・アッセンブリーやNPでの国歌斉唱のとき、他国に対する敬意と世界平和を感じた。

この経験を決して無駄にせず、必ず社会貢献をし恩返ししていきたいと思う。

異文化交流の面で多くのことを学んだ。言葉では知っていても実際に経験しないと実感としてないものと同じになる。それを経験できたのは大きい。

事前研修の時から「質問は全体の前でするように」と言われ、「失敗しても問題ない。SWYは安全な場所だから」と励まされ、たくさんの人に創造性を自由に発揮できる機会を与えられた。本当に感謝している。

日本と外国を知り、日本と自分について知ることができた。文章にすると安っぽい言葉になるが、心からそう思う。

常に、自分と向き合っていた。こんなことは初めてだった。苦しくて逃げ出したくなったこともあったが、向き合った時間は絶対ムダではなかったし、そのお陰で自分がパッションを感じるものが何か発見できた。違う文化の人とこんなに深く関わった経験がなく、正直今自分でも驚いている。

この事業に参加できて本当に良かった。初めての海外経験、初めての異文化交流、初めての家を離れての長期生活と、全てが自分にとっては新しいことばかりで、不安や辛いことも多々あったが、とても刺激的な2か月間だった。「グローバル」という言葉に対するある種の拒絶感も消え、自国に対する見解や課題、更には歴史的なものまでも知りたいと思えるようになった。

行動で証明し、社会に貢献できるようになるためにも、日々の学び、努力をたゆまずに続けていこうと思う。

プログラム開始前は、リーダーシップや国際社会のことについて学ぶプログラムだと思っていた。それはもちろんそうだったが、驚いたのはそれ以上に自分のことについて考えることが多かったことである。様々な人々との交流や多くの学びを通じて、自分とは何かを考えさせられた。多くの人々からの支えで自分は変わったと感じる。

世界に友達がいるということは、平和を願い、実現していくために欠かせないわけではないが、大切なことだと思った。OPYが自分の進んでいきたいビジョンを持ち、「それを実現するために今何をすべきか」を明確に考えていることが尊敬できるし、私も見習いたい。他の人のうわさやねたみを聞かない(気にしない)。Be Positiveでいること。船を下りても、忘れないでいようと思う。

向上心のある人が多く、非難したり無関心だったりする人もおらず、自分のアイデアを発信しやすかった。OPYやすばらしい人たちと一緒にいて、私は自分で自分の才能を潰していたんだと気付かされた。今後は、私の人生の目的や自分の才能を発揮して、自分のできる社会貢献をしていきたい。

<改善すべき点>

PYがもっと自ら問題を解決していくようにした方が良いと思う。

私はこの事業を楽しんだし、知識も得、そして10か国に自分の第2の家族を持つことができた。しかしながら、今年の事業にはマイナス面も多かった。例えば、四つのセミナーとコース・ディスカッションが組み込まれていたこと、短い時間に諸々の活動が押し込まれていたことなどである。管理部からJPYへのプレッシャーも大きかったし、OPYがJPYと個人的に知り合う機会が少なかった。

専門的なことを学ぶ企画のいくつかは、そのレベルがOPYを満足させるものとはなっていなかったと感じている。

コース・ディスカッションには、もっと現実的で具体的な内容を増やすべきだし、ファシリテーターは、実際にビジネスに従事している人であるべき。話し合いはたくさんしたが、学ぶものはほとんど無かったと感じている。

寄港地にもう少し多様性があると良かった。インドとスリランカは、いろいろな面で似ている部分が多かった。

スケジュールがきつ過ぎると感じた。ほかのPYと話をする時間が十分に無かったし、勉強したことを復習する時間も無かった。仕方なく夜更かしせざるを得なかった。

要求されるものの多さからスケジュールがきつくなり過ぎており、多くのPYが自分自身にプレッシャーをかけていた。

PYの集中力を上手くコントロールできていないように感じた。そのため、集中力を存分に発揮した活発な議論がなされることは稀で、プログラムをただ単にこなしている感覚に陥った。結果、夜の自由時間は最も重要なはずであるPY間の知的な会話の不足に嘆くPYが多かったのだと感じている。

スケジュールがタイトで、交流時間の不足を感じた。

< 提案 >

次回のSWYでは、PYの経験を共有する時間や、経験学習スタイルの時間を十分に取るのが良いだろう。そのために、例えば別枠でセミナーを実施する機会があれば良い。

スポーツや体を使うアクティビティ、そして振り返りをするための時間をもっと取る。

日本滞在時間を長くすることによって、日本の発展や文化、技術などについてより深い理解が得られるだろう。

つながりや絆を作るには、スケジュールの中にもっと自由時間や会話の時間を組み込んでおくべきだ。PYの多くが、食事と睡眠と会話の間で優先順位をつけようとしていると聞いた。このように、バランスを取るのが難しいくらい過密スケジュールだった。

入門編と上級編のクラス分けをし、それぞれのPYがレベルに応じて学べるようにすべきだ。

ほかの人々、特にJPYと話をするための自由な時間をもっと作ってほしい。JPYは、いつも忙しくしていた。

会社でのボランティア活動など具体的な成果の見えるもう一段上級の活動を導入すべきだ。

JPYの英語レベルが低過ぎる。JPYが理解できるように、簡単な単語を選んで使わなければならない、困惑した。選考の際には、TOEFL/TOEICの点数を基準に入れるべきだ。

プロジェクトマネジメントやリーダーシップのスキルを実践できる場を作ってほしい。スケジュールが忙しすぎると自主活動がやりにくく、プログラムをこなすだけの時間が増える。

IDI調査結果

北海学園大学教授
石井 晴子

IDI (Intercultural Development Inventory - 異文化感受性発達調査) 実施について

シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ(SWY28) JPYを対象に、短い時間ではあったが、事前研修及び事後研修時にミルトン・ベネットのDMIS (Development Model of Intercultural Sensitivity) 「異文化感受性発達モデル」(Bennett, 1993)を説明し、DMISに基づいて開発された、IDI (Intercultural Development Inventory - 異文化感受性発達調査)(Hammer & Bennett, 2002)を行った。DMIS理論では、異文化の経験と認知トレーニングにより、「異文化」に対する認識が変わっていき、感受性が発達すれば、よりうまく多文化の環

境に適応することができるようになる、という、異文化に対する感受性の発達を説明するものである。なぜ、本事業に異文化感受性の発達が言及されるのか、また「異文化感受性発達モデル」とは何かを説明し、今年のIDIの調査結果について考察する。ただし、私はPYとは事前研修及び帰国後研修のそれぞれ1時間ほどしか接しておらず、乗船中やその他プログラムでの出来事等は承知していないので、結果考察は自分が過去に指導官として乗船した経験及びIDIと共に行われたアンケートを元に行った。

SWYという多文化環境を最大限に活用するために

事前研修で使った図を元に説明する(図1)。以下は企業などの組織を想定した、チームパフォーマンスの状態を表すアドラーによる(2008)図である。まず「a」の領域はCross-Cultural Teams(多文化チームで、様々な文化背景を持った者たちで構成される)で、「より良く働くための多文化トレーニング」を受けていない人々の集まりである。彼らは多種多様な価値観、例えば、時間に対する考え方、仕事に対する態度、人生における仕事の優先順位などが異なっている。単なる多種多様な価値観を持ち「トレーニング」もを受けていない人々の集まりであるゆえ、パフォーマンスはHighly Ineffective = 非常に低い。そこで、組織は「やはり価値観が同じ人と

働くのが一番！」ということで、「b」の領域のSingle-Culture Teams = 単文化のチーム、つまりやり方や価値観が同じ人々のチームを作る。これによりパフォーマンスはAverage = 平均的となり、多文化で構成されるチームよりは「結果が出た」ことに喜ぶ。この経験から「学んだ」組織は、異なった価値観や態度を持った人々を排除しがちである。確かに異なった価値観や態度を持つ人々と交渉しながら働くよりは簡単であろう。アドラーもこのように、「a」から「b」に移ってしまう組織は数としては一般的であるといっており、図の真ん中の山が高くなっているのは、組織の数が多ことを示す。

しかし、実は「c」の領域に、宝が隠されている。こ

こは「より良く働くための多文化トレーニング」を受けた多文化チームの領域である。イノベーションは価値観や発想が異なった人々が織り成す結果であるのだが、この図はまた「b」の領域から「c」の領域に移行することができ、かつ、Highly Effective = パフォーマンスが高く、イノベティブな組織はごくわずかである、という説明をしている。「b」から「c」に移行できるのは、多文化チームで働く経験だけでなく、より良く働くための認知トレーニングが行われたかどうかであり、余裕のある組織しかそのようなトレーニングを行っていない。

SWYは最初は「a」の状態であろう。個人的には異文化での経験、あるいは多文化環境での仕事をしてきた参加者もいるかもしれないが、その経験もばらばらである。SWYの経験を経ることにより、PYが「c」の領域を経験し、グローバルリーダーとして多様な環境で活躍ができるようになってもらいたい。「c」の領域は多様

な背景を持った人々の「違い」から最大限に互いの資質を引き出せる状況である。SWYはそのトレーニングの場として最適なものである。

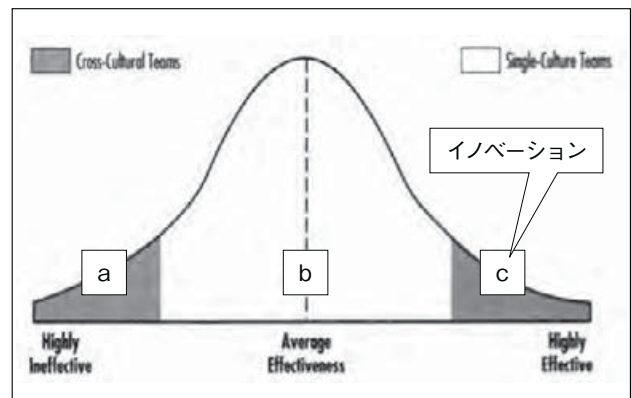


図1. 多文化チームのパフォーマンス効果 (Adler and Gundersen, 2008, p.140を元にした)

「異文化感受性発達モデル」(DMIS - Development Model of Intercultural Sensitivity)

異文化適応の変化を見る基本となる理論が、ベネットの異文化に対する感受性の発達モデル(DMIS-Development Model of Intercultural Sensitivity) (Bennett, 1993)である。大雑把にいうと、基本的にどんな文化にも優劣はなく、異文化の感受性が発達すれば、文化の違いを脅威とみなしたり、(単純で誤りの多い)ステレオタイプに陥ったりすることを減らせる。また、自分の文化的価値観を元にして他の文化を「変だ」ということをやめて、文化的他者の視点を理解し、様々な違いを受け入れることによって、自分も他の文化に適応することができるであろう、というものである。異文化コミュニケーション研究の多くの研究者が似たような異文化に関する世界観、あるいは、感受性の発達理論を展開しているが、ベネットの理論が最も研究、引用されている。具体的には、図2のようになり、異文化に対する感受性を発達させることによって、左から右へ移行することができる、というものである。

あるいは文化差を避ける、という態度である。しかし、文化差を避けて通れなくなると次には「敵対的態度」に出る。これがPolarization = 二極化(防衛、転換)のステージである。「我々」対「彼ら」を比較し、「我々」の文化は常に正しいと思う態度。反対に「彼ら」の文化が自分の文化より優れて見えてしまうと、Reverse = 「転換」という状態になる。また、他の文化の人を個人として認識できないのでステレオタイプの見方が強い。また、民族や宗教の対立はこの状態から発する。

文化間の抗争や対立が強い場合には、それを取りあえず解決するために、「彼ら」と「我々」の共通点に注目させ、平和をもたらすための文化ワークショップが行われることがある。意識的にMinimization = 「違いの最小化」に持っていくのである。しかしながら、このMinimizationのステージではあくまでも異文化感受性の発達としては通過点である。なぜならば、類似性(similarity)の強調をしすぎるからである。人は結局みな同じだから、文化なんて関係ない、と思ってしまうのである。確かに人は多くの共通した要素を持つので、ある意味正しいのだが、それでは個人の個性や違いに価値を置くことを忘れてしまうという危険性をはらむのである。また、Minimizationは心地よく「あの人は私と似ているからうまくやっていける」と思う状態である。「自分の価値観と一緒に人を過大評価することは、「私の価値観が世界観の普遍的な価値観である」と信じること(universalismと呼ばれる)につながってしまう。また、Minimizationでは複雑な文化的特性の違いを享受せず、どちらかというはまだ脅威を感じるが多く、脅威が大きくなると、Polarizationに戻ったりする。移行期のステージといわれるMinimizationを含めてここまでの三つのステージが、Mono-Cultural Mindset、あるいは自文化中心主



図2

少し詳しく説明すると、最初のDenial = 違いの否定(無関心、あるいは回避)のステージは、文化差に興味がない、

義、つまり自分の文化スタンダードから他の文化を評価する、という世界観である。

しかしながら、単に共通点ばかり探してはつまらない、あるいは異なった価値観を楽しみたい、となると次のステージに移行する。そのステージがAcceptance = 「違いの受容」のステージである。「文化に良いも悪いもない、ただ、違うだけである。私のやり方とは違うけれど、あなたのそういうやり方も受け入れよう」という考え方である。文化の違いをとらえる認知的複雑性が発達し、その上で取りあえずは他の文化的価値観に基づく考え方も尊重して受け入れてみよう、というのである。受け入れて試してみると、意外と「なんだ、そういうことか。こういうやり方も悪くないな」と、相手のやり方や考え方が自分のものになると、最後のステージのAdaptation = 「適応」のステージに移行する。この最後の二つのステージはIntercultural Mindsetと言われ、異文化適応ができ、他の文化でも「自分らしく」(つまり、「自分」の枠が広がるので、他の文化の価値観自体が「自分らしい」の中に取り込まれるのであるが)勉強ができた、仕事ができたりするのである。

ここで注意しておきたいのは、左から右に移行すれば

人として「優秀である」とか、「感受性に秀でている」ということでは全くない。違いを受容しようとしても、人種差別のような悪い経験をしたり、生活環境がどうしても受け入れられない、という経験をすると、なかなか違いを受け入れられない。また、ステージ、という表現をしたが(ベネットが「ステージ」という表現をしている)ゲームのように一つのステージを完全にクリアして次のステージに行く、というのでもない。さらに、Minimizationの基本的特徴は必ずしも悪いものだけではない。たとえば、子供の頃は単純に「人に対して同じように接すること」が良いとされ、「共通の関心を見付けること」で友達ができる、と教えられている。しかし、その単純さが問題なのである。文化の複雑性、個人の多様性に関心が持てなくなると、結局「気の合ういつもの人」と「いつものやり方」で、に安住することになる。つまり、図1に戻ると、「a」がDenialやPolarizationであり、「b」がminimizationなのであろう。互いの共通点も大事にしながら、相違点に更に着目し、その多様性から多くを学ぶことができる、というAcceptanceやAdaptationが必要な、「c」になかなか到達できないのも無理はない。これらを踏まえてSWYで行った調査結果を見ていく。

SWY28のIDI調査

DMIS理論を元にして作られたのがIDI(Intercultural Development Inventory - 異文化感受性発達調査)(Hammer & Bennett, 2002)である。50問からなる調査紙は5段階のリッカート尺度(「全く同意できない」から、「非常に同意できる」まで)で異文化に対する質問に回答してもらう。今回はJPY全員からの回答を試み、プログラム前は123名全員、プログラム後には107名からの回答があった。回答者個人の結果には大きなばらつきがあり、参加前の異文化の経験の多少が影響していると思われる。しかしながら、これを平均して回答者のグループとしての結果を以下の表1に示す。回答者の中には自分の経験と合致しない、という者もいるとは思いますが、あくまでも平均値であることを断っておく。

まず、「異文化感受性」のセクションは異文化に対する理解、意識を表す「Perceived Orientation (PO) = 認知度」と、異文化に対する実際の感受性である「Developmental Orientation (DO) = 発達度」がある。簡

単に言うと、「認知度」は異文化に対する回答者の見方(これが良い、という理想)、「発達度」は回答者の異文化との実際の関わり方(現実)を現す。必ずDOのポイントがPOよりも低い。理想と現実のギャップである。

Intercultural Orientation (異文化の見方)

全体的な傾向をIntercultural Orientation「異文化の見方」のセクション(表1)見てからいく。今回の測定ではPO「認知度」は121.32であり、この値は「理想」がAcceptanceであることを示し、その態度は事業後には122.52とわずかに上昇した。SWY28のJPYのDO「発達度」の値は事業前は89.62であったが、事業後には92.25と変化した。つまり、大まかにいえば、「理想」はAcceptanceであるが、「現実」はMinimizationに依存していることが分かる。また、DO値の変化は異文化環境での自分の実行力を測定するものであるために、より重要である。

	事業前 (n=123)	事業後 (n=107)	変化
Intercultural Orientation (異文化の見方)	(145ポイント中)	(145ポイント中)	
Perceived Orientation (PO) 認知度	121.32	122.52	1.20
Developmental Orientation (DO) 発達度	89.62	92.25	2.63

表1 Worldview Profile of SWY28 before and after the program

しかしながら、事業前、事業後ともにDOの値は Minimization であるが(図3参照)、アメリカの留学プログラムの研究結果 (Vande Berg, Paige, & Lou, 2012: 345) と比較すると、SWY28のDOの+2.63という変化値は、アメリカの大学に留学している学部生の同値の1.5年分の経験に相当する。さらに、SWYプログラムの参加者は、一つ

の国に留学に行くのに比べ、地理的対象文化がない(アメリカに留学するのであれば、アメリカ文化を念頭に置いた文化経験であろうが、船にはそのような地理的対象文化はない)という複雑な異文化環境を経験している。したがって、この2.63という変化値は価値があるものであり、称賛に値する。

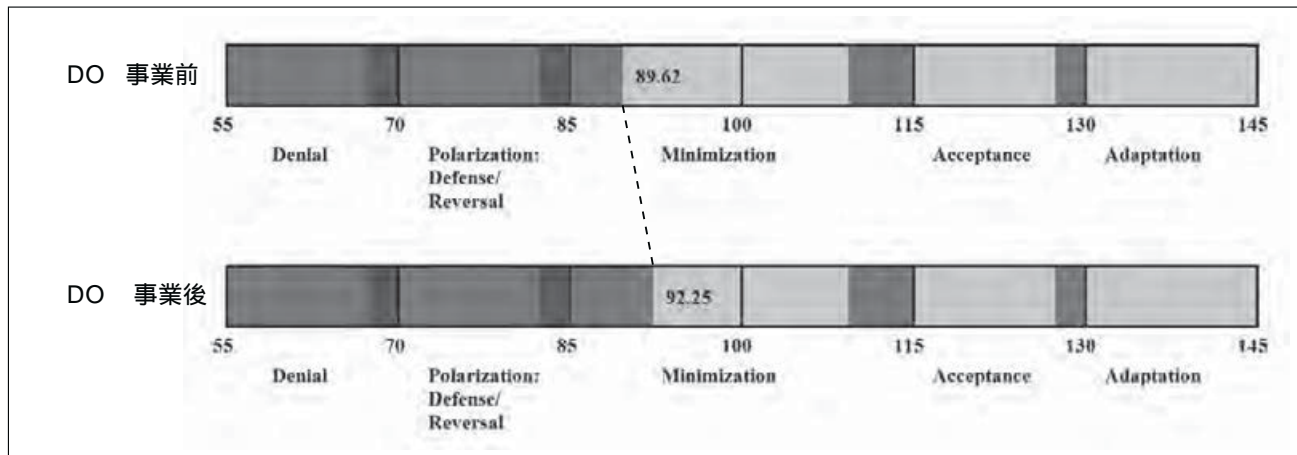


図3 Comparison of DO before and after the program

Worldview Profile (世界観プロフィール)

Worldview Profile (世界観プロフィール)はDMISのそれぞれのステージの伸びの傾向を「+」と「-」であらわす。(表2)

さらに表2の内容を見てみると、M(minimization - 違いの最小化)以外は全て+の変化がみられる。特に、DD(違いの否定)とAA(違いの受容、適合)の分野では4ポイント以上、又は4ポイントに近い。4ポイントを超

えることが良いとされている(Hammer & Bennett, 2002)のために、これらは価値のある値である。しかし、M(minimization - 違いの最小化)のポイントが2.97から2.65と事業後の値が下がっていることから、原則的には違いを楽しんでいるものの、実際には「自分と似ている考え方」の参加者たちにかなり依存していたり、「我々は結局は同じ」と感じる場面が多かったのではなかったかと推測される。

	事業前 (n=123)	事業後 (n=107)	事業前後の 変化
Worldview Profile (世界観)	(5ポイント中)	(5ポイント中)	
DD (denial-defense) Scale (違いの否定)	3.80	4.08	+
R (reverse) Scale (転換)	3.51	3.55	+
M (minimization) Scale (違いの最小化)	2.97	2.65	-
AA (acceptance-adaptation) Scale (違いの受容、適合)	3.73	3.98	+

表2 SWY27 IDI Before and After

Minimizationの落とし穴

Acceptance(違いの受容)が高い値なのに、なぜMinimization(違いの最小化)がそんなに低いのか、と思う人もいると思う。先にも述べたように、Acceptanceが高くてても限定的な場合がよくある。これはtrailing orientationと呼ばれる。Trailingとは「引きずる」という意味だが、「弱点」と解釈してよいだろう。Trailing orientationがあると、長所のAcceptanceがフルに発揮できないのである。特に船のプログラムでは、他の文化のやり方を良いとか悪いとか言っていないで、取りあえず受け入れなければならない場面、避けられない場面が多い。また、異文化を楽しむために参加したのだし、たく

さん新しいことにトライしたのだろう。一緒に生活し、文化の違いを受容し、適合し、また多様性を楽しんだと思う。だから、Acceptance値が上昇した。しかし、実際に作業をするときに、やり方の違うOPYに説明をしても分かってもらえなかったり、英語が通じなくて、もがいたことも多かったのではないだろうか。その結果「自分を分かってくれる人」「日本のやり方を尊重してくれる人」(つまり自分の価値観が中心であって、それに近寄ってくる人たち)と多くの時間を過ごしたのではなかっただろうか。JPYにとって全くなじみがなく、友達になることを想像さえしなかったOPYと、同じジョーク

で笑って「あ、結局人は同じなんだな」と「理解」した経験が多々あった、という参加青年もいるのではないだろうか。前述のように、これらは別に悪いことではないのである。Minimizationは共通点で落ち着くので実に心地の良い状況なのである。

それでは何が問題なのか。前述にもあるが、Minimizationの落とし穴は、その心地良さにある。一つには、心地良くなると敢えてリスクを冒して環境を変えてみようとは思わないのではないか。つまり、価値観の違う人と距離を置くようになり、なぜ異なっているのかを知ろうと思わず、まして、他のやり方でやってみようと思わなくなるという危険性がある。

二つ目には、違いやユニークな考えに盲目的な環境であるMinimizationからはイノベーションは生み出せないのである。もちろん、SWYのPYは「どうしたら、世界がより良くなるのだろうか」を考えるという一つの同じの目的をもった者の集まりである。しかしながら、一見同じに見えたことも、深い価値観や意味の違いがあり、それに盲目になってしまうのである。深いところにある違いを紡ぐのもSWYプログラムの一つの目的なのである。

三つ目のSWYでのMinimizationの落とし穴は応用力がなくなることである。このプログラムに参加する善意の塊のようなOPYはどちらかというと日本びいきの青年が

多い。このような優しい環境は一般的には日本国外（あるいは船外）にはないと思ったほうが良い。日本のことを一生懸命知ろうとしたり、JPYのやりたい方法でやってくれたOPYは一般世界よりも多いはずである。JPYは今後、日本文化や日本人に興味がない人たちが集まった環境で、乗船中と同じだけのパフォーマンスをあげられるだろうか？しかしながら、すでにあなたがこれらのことに気が付いていれば、「より良く働くための多文化トレーニング」を自分で行ったことになる。

繰り返しになるが、前出の図1の「多文化チームのパフォーマンス効果」にもあるように、等質性を強調し、何の説明もしなくても分かり合える人々で構成しようとする「b」の領域はMinimizationであり、それなりに作業効率もあがり、やりやすいのかもしれない。だから、多くの人がそこに留まりたがる。しかし、SWYは「c」の領域での活躍が期待された。多様性から生まれるイノベーションを楽しみ、そしてなによりも、文化のみならず、人種、エスニシティ、宗教、言語、ジェンダー、あるいは障がいの有無を含んだ個人の「違い」、多様性をそのまま受け入れ、楽しむ世界を作る。そのパイオニアになることが、この多文化プログラムであるSWY卒業生の応用力として期待されるのである。健闘を祈る。

<参考文献>

- Adler, N. J., & Gundersen, A. (2008). International dimensions of organizational behavior. Mason, OH: South-Western Cengage Learning.
- Bennett, M. J. (1993). Towards ethno-relativism: A developmental model of intercultural sensitivity. Yarmouth, ME: Intercultural Press.
- Hammer, M. R., & Bennett, M. J. (2002). The Intercultural Development Inventory (IDI) manual. Portland, OR.